



第142号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第120回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第121回 WFP 作品展
- ・ 東京オリンピック開催?記念作品展(再掲)
- ・ 推理将棋第127回出題

結果発表

- ・ 第119回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第125回解答

読み物

- ・ レトロプロブレム入門(4) by 高坂研
- ・ 第4回神無太郎の氾濫 問題編
- ・ FairyTopIX2019 お気に入り投票要項



2020/4

はじめに

強欲協力詰 受先 38手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	科	と							一
		香							二
香	香	銀							三
			馬	角	と				四
			車		馬				五
			銀	金	香		車		六
							龍	歩	七
							龍		八
						王			九

持駒 なし

新型コロナウイルス

まさかこんな状況になろうとは誰が想像しただろうか？と先月冒頭で書きましたが、今月もまさに同じ思いとなりました。

3月20日現在では感染者924人、死亡者数29人という状況にあったわけですが、4月19日現在で感染者10,437人、死亡者数224人とわずか1ヶ月の間に10倍の数字になったわけです。緊急事態宣言の地域もも7つの都府県から全国に拡大されました。

外出の自粛要請もあり、ショッピングモールもデパートも食料品売り場を除いて閉まってしまいました。まさに人生で初めての体験でこの先どうなるのか不安でいっぱいです。

感染者が少ない地域では危機感の無い人がいることも事実だと思います。私たちに出来ることは一人一人が自分で出来る最大限の努力をすることでしょう。

来月の20日には終息の話題になっていることを節に願っております。

がんばろう！日本！打倒！コロナウイルス！

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第142号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第120回WFP作品展(再掲)及び 第121回WFP作品展

担当：神無七郎



フェアリーの歴史(番外編 2) ～ 同名異ルール ～

フェアリー作品を鑑賞するとき注意しないといけないのが、時代ごと、作品ごとのルールの違いです。表面上のルール名には違いがないのに、ルールの中身が違う例があるのです。これには「すかし詰」「同手数駒余り」など、普通詰将棋にもある附則の採否から生じる違いもあれば、「利き二歩有効・無効」「単純打歩・完全打歩」など変則詰将棋特有の附則の採否に由来するものもあります。

中にはルール自体が大きく変わってしまったものもあります。例として「中立駒」を挙げましょう。これは同じ名前の異なるルールと言って良いほど変化しています。まずは“昔の”中立駒作品をご覧くださいませ。

山田嘉則 作

詰将棋 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
							香		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 n香4

※n香は取れない中立駒
(カピタン、1986年2月、
第14回前衛賞短編部門佳作)

12n 香 19n 香成 12n 香 18n 香成
12n 香 17n 香成 12n 香 まで 7手

現在の中立駒だと 12n 香に対して「同と」で不詰なのですが、当時は中立駒を取れないルール設定でした。作意の 12n 香はこの性質を活かした限定打で、離して打つと「12 と」と移動合され、「同 n 香成」なら「13n 杏」で、「同 n 香生」なら「21 玉」で逃れる仕組みです。とても巧妙ですね。

当時、中立駒が取れないとされた背景には中立駒を「手番側に所属する駒とみなす」という考え方がありました。自分の駒は取れないので、中立駒も取れないというわけです。

それに対し、現在、中立駒は取れることになっています。中立駒は手番側に所属しているわけではなく「手番側が動かせるという性質を持ったフェアリー駒」であり、盤上にいる限り「無所属」です。そのため、自分の駒で中立駒を取することもできますし、中立駒で中立駒を取することもできます。

ただ、現在の中立駒のルールにも「所属」の概念の影響は残っています。例えば中立駒のルールの細則 5)「二歩禁が適用される」について考えてみましょう。中立駒を単なるフェアリー駒とみなせば、「二歩禁は適用しない」としても良かったわけですが、そうになっていません。仮に現手番で「二歩」にならなくとも、手番が渡ったときに「二歩」になるので、手番によらず「二歩」は禁止されています。

実は冒頭に紹介した山田嘉則氏の作品が発表された号のカピタンでも「取れる中立駒」の提案がありました。提案者は小林看空氏です。この提案では「二歩禁」は、「二中立歩禁」であり、通常駒との「二歩」は禁止されていません。「攻方」「受方」の他に「中立」という所属があるという考え方です。

「二歩禁」だけに対象を絞っても、いろいろなルール設定があり得るわけですね。

WFP 作品展で採用している中立駒のルールは WFP61 号で変寝夢氏が提案したものです。もちろん、それ以前にも中立駒作品は作られていたわけですが、これをきっかけにルールが成文化され、他の作家も安心して中立駒作品を作れる環境が整ったことは重要です。

自由度の高さは、フェアリーの良さでもあり、欠点でもあります。同じ名前でも、人によって違うルールを思い描いているかもしれません。ルールの成文化は、異なるルールを同一視する誤謬を避け、複数の詰将棋人が共通の認識を持つ助けになります。将来、中立駒のルールが変わっても、「いつの間にか知らないうちにルールが変わっていた」ということがなくなり、未来のフェアリー愛好家が現代の作品を見て理解に苦しむ事態も防げるでしょう。

さて、今回は中立駒のルールの変遷に触れ、ルールの成文化の重要性を強調しましたが、これを書いているうちに、本作品展で使用している中立駒のルール説明で重要な事項が抜けていることに気付きました。「打中立歩詰禁」です。これは WFP61 号で述べられており、実際に発表された作品もそのルールに沿っているわけですが、その記述が抜け落ちていました。今回から中立駒のルールの細則 5)に「**中立歩による打歩詰禁止**」を付け加えることにします。何とも間の抜けたオチですみません。

では今月の出題です。今回は第 120 回の再掲載分と第 121 回の新規出題です。第 121 回には 15 作の投稿があったので、うち 3 作を繰越しています。それらの掲載は次回以降になりますが、どうかご了承ください。

〔第 120 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 120 回の出題は 10 題。ツイン（組局）や複数解を求める問題があるので実質 12 題です。

今回登場する作者は高坂研氏、占魚亭氏、神無太郎氏、上田吉一氏、変寝夢氏、真 T 氏の 6 名。作品ごとに難易度の差がありますが、解けた分だけでも解答をお寄せください。

120-1 及び **120-2** は高坂研氏の透明駒作品。**120-2** は WFP117-8 と同様、レトロ解析が要求されています。つまり、この出題図から逆算して、どこかで逆算が行き詰まらないことを前提条件に含めてください。

120-3 及び **120-4** は占魚亭氏の作品。Imitator の使用はいつも通りですが、今回はフェアリー駒が加わっています。**120-3** では AntiAndernach の条件も付加されており、ルールの把握がまずは先決ですね。また **120-3** は 2 解を求める作品なので、できるだけ両方の解を求めてください。Camel（駱）は本作品展では初登場ですが、単純に 3 対 1 の方向に跳ぶ八方桂なので特に説明は不要でしょう。NightRider は過去にいくつか使用例がある（直近では WFP99-6）ので、参考にとると良いでしょう。

120-5 及び **120-6** は神無太郎氏の作品。双方の玉以外はすべて中立駒になっているという条件で Imitator を使用した作品です。かなりの難物だと思いますが、同氏の第 112 回の 3 作が（協力自玉詰ではなく協力詰ですが）参考になるか

もしれません。

120-7 及び **120-8** は上田吉一氏の作品。前回と同様、Locust と Grasshopper を使った協力自玉詰です。**120-7** はツイン（組局）ですが、短手数なのでぜひ両方解いてください。**120-8** も手数の割に易しいと思うので、あまり構える必要はありません。

120-9 は変寝夢氏の「全 Andernach」。前回に引続いての登場です。とどめの駒は予想しやすいと思いますが、全 Andernach なので入手方法に工夫が必要です。

120-10 は第 80 回以来久々となる真 T 氏の本作品展への登場です。ルールもお得意の最悪詰。変化・紛れが少なく、狙いも明快なので、最悪詰に不慣れな方にもお勧めです。

〔第 121 回作品展各題への補足説明〕

第 121 回の出題は 12 題。今回登場する作者は神無太郎氏、占魚亭氏、上田吉一氏、真 T 氏、高坂研氏、青木裕一氏、馬屋原剛氏、変寝夢氏の 8 名です。作家数が多いので多彩な作品が楽しめそうですね。馬屋原氏は本作品展初登場。こうして新しい方の参加や、久々に復帰される方が増えると担当としても嬉しいです。

121-1 は神無太郎氏の中立駒 & Imitator 作品。氏からは同じルールでもう一作投稿をいただいているのですが、出題数及び難易度の関係で繰越しとさせていただきます。難しいと思いますのでヒントを出します。「Imitator は盤端に」を強く意識して解いてください。

121-2 は占魚亭氏による中立 NightRider を使った作品。例によって Imitator との組み合わせです。こちらも「Imitator は盤端に」を強く意識して解いてください。

121-3 及び **121-4** は上田吉一氏のフェアリー駒作品。第 119 回、120 回で出題された作品と共通する要素があるので、ヤマを張ると意外と早く解けるかもしれません。なお、元の投稿では受方のフェアリー駒の数は「n 枚」と書かれていましたが、ここでは使用可能な枚数の上限である「手数 ÷ 2」枚としました。

121-5 及び **121-6** は真 T 氏お得意の最悪詰。華麗な手順を楽しめると思います。前回登場時は入院中で病床からの投稿でしたが、今回は無事退院されたとのことなので、ぜひ解答でお祝いしましょう。

121-7 及び **121-8** は高坂研氏の透明駒作品。

今回は「キルケ」との組み合わせです。逆算可能性について考慮する必要はありませんが、初形が不正な配置でないことは考慮してください。以下に改めて本作品展で出題される初形に対する省略時条件を示します。

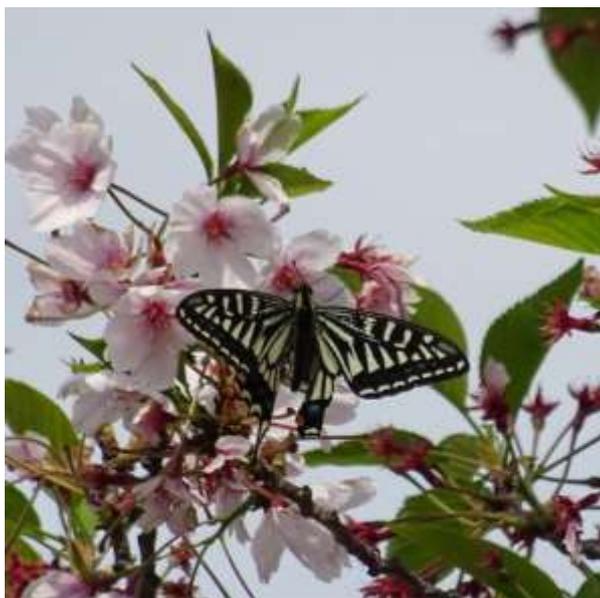
〔初形に対する省略時条件〕

- 1) 攻方手番であること
- 2) 標準の駒種、駒数であること
- 3) 二歩・行き所のない駒がないこと
- 4) 相手番の玉に王手が掛かっていないこと

121-9 は青木裕一氏の安南詰。「連続王手の千日手禁止」を宣言していることから、内容を予想できる人もいると思いますが、もちろん、例の作を安南に仕立て直したわけではありません。なお、千日手の成立条件は将棋の実戦と同じく「同一局面4回」とします。フェアリーで実戦と同じ設定を採ることに意味があるかどうかは議論の余地がありますが、本局はそのルール設定で解いてください。また、「利き二歩有効」は本作品展のデフォルトのルール設定ですが、誤解を防ぐため明示しました。

121-10 及び **121-11** は本作品展初登場となる馬屋原剛氏の透明駒作品。これも逆算可能性を考慮する必要はありません。

121-12 は変寝夢氏の「駒全マネ禁」。玉から遠い所に成桂がありますが、これは大きなヒントですね。もしかしたら今回の作品展で一番易しい作かもしれません。



解答要項

第 120 回分解答締切:2020 年 5 月 15 日(金)

第 121 回分解答締切:2020 年 6 月 15 日(月)

宛先: **k7ro.ts@gmail.com** (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載しますが、投稿作が一回の出題数(12 題)を越えた場合、出題時期を調整させていただきます。

宛先は解答と同じ **k7ro.ts@gmail.com** へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照: WFP83 号「透明駒の紹介」

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【AntiAndernach】

玉以外の駒は、駒を取らない盤上の移動を行うと、着手後に相手の駒となる。

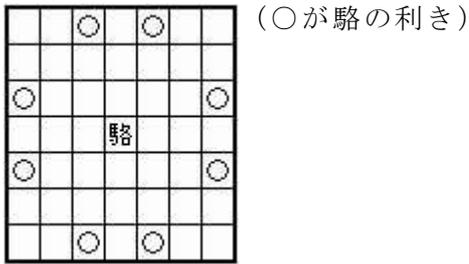
(補足)

- ・細則は Andernach と同様に「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。
- 1) 駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合、相手の駒にならない。
- 2) 相手の駒になるのは成生の選択後。
- 3) 駒を取らない盤上の移動では、相手陣二段目への桂の不成、一段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)。

→本誌初出: 第 60 回 WFP 作品展(WFP68 号)

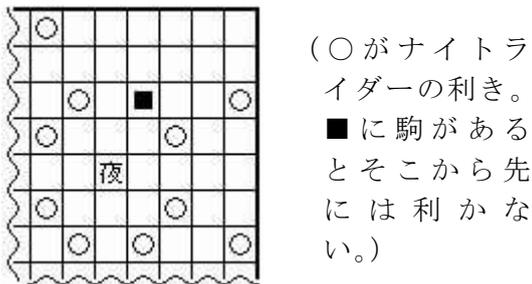
【Camel】(駱)

Camel はフェアリーチェスの駒。
3対1の方向に跳ぶ八方桂。



【NightRider】(夜)

フェアリーチェスの NightRider。
ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



【中立駒】(「𧰨」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

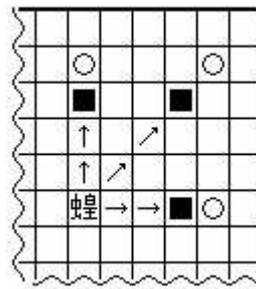
- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) **中立歩による打歩詰は禁止**。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行く。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【Locust】(蝗)

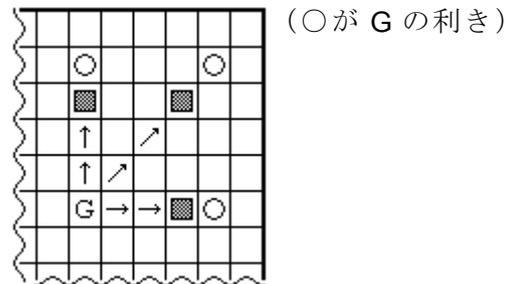
フェアリーチェスの Locust (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



(補足)

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

【全 Andernach】

玉以外の駒は、盤上の移動を行うと、着手後に相手の駒となる。

(補足)

- ・細則は Andernach と同様で「駒取り」を「盤上の移動」に読み替える。
- 1) 盤上の移動で二歩になる場合、相手の駒にならない。
- 2) 相手の駒になるのは成生を選択後。
- 3) 盤上の移動では、相手陣二段目への桂の不成、一段目への桂香歩の不成が可能 (二歩の例外を除く)。

→本誌初出：第119回 WFP 作品展(WFP140号)

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

(補足)

・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

(補足) 二歩について

性能変化ルールで「玉を取ったとき、二歩になる手を有効とするか否か」でルール設定が分かれる。これを有効とするのが「利き二歩有効」、無効とするのが「利き二歩無効」。何も書いていなければ、WFP 作品展では前者の設定を適用する。

【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手では詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。
また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」



<第 120 回>解答締切:2020年5月15日(金)

■ 120-1 高坂研氏作
協力白玉詰 6手

									王	一
										二
										三
					角					四
										五
								香		六
								王		七
										八
										九

持駒 なし

※透明駒：攻方0枚、受方2枚

■ 120-2 高坂研氏作
協力白玉詰 4手

					銀	王				一
					歩				王	二
										三
								桂		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

※透明駒：攻方1枚、受方1枚
逆算可能性を要請

■ 120-3 占魚亭氏作
AntiAndernach協力詰 7手 (※2解)

										一
							王			二
		王								三
	王									四
					王					五
										六
										七
										八
										九

攻方持駒 駱

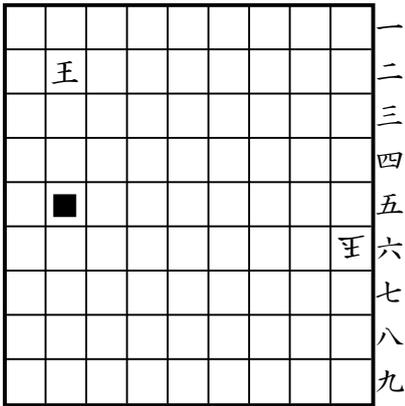
受方持駒 なし

※■:Imitator、駱:Camel

■ 120-4 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



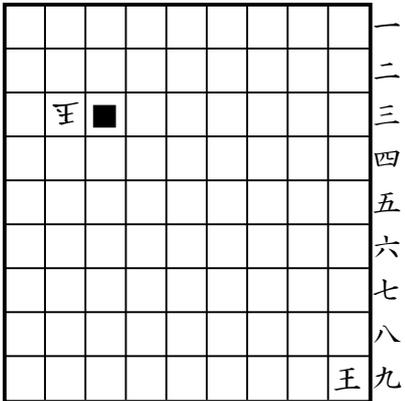
持駒 夜

※■:Imitator、夜:Nightrider

■ 120-5 神無太郎氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n銀

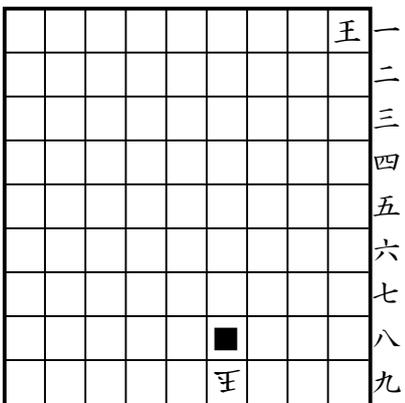
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 120-6 神無太郎氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n飛

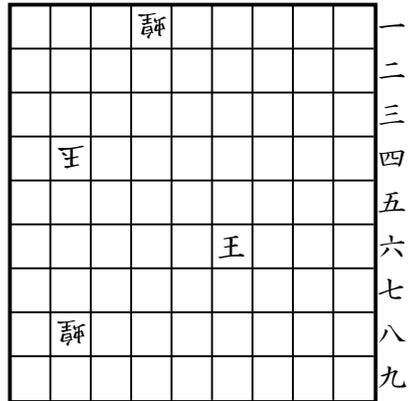
※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 120-7 上田吉一氏作

a) 協力自玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

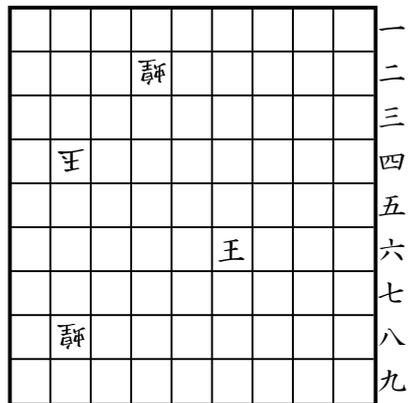


持駒 飛角

※蝗:Locust

b) 協力自玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



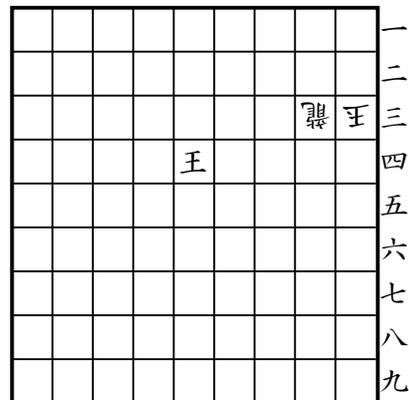
持駒 飛角

※蝗:Locust

■ 120-8 上田吉一氏作

協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 G

※G:Grasshopper

■ 121-4 上田吉一氏作

協力自玉詰 8手

									王	一
			夜			飛				二
										三
						夜				四
										五
										六
			王							七
										八
										九

攻方持駒 G
 受方持駒 残り全部+夜4
 ※夜:Nightrider
 G:Grasshopper

■ 121-5 真T氏作

最悪詰 15手

										一
			王							二
						香				三
			王		銀					四
	角		香							五
										六
			桂							七
										八
						飛				九

持駒 香4

■ 121-6 真T氏作

最悪詰 25手

										一
			王		香	香				二
					角	香	銀			三
			金		王	歩	香			四
				歩		香				五
				飛						六
										七
										八
	飛									九

持駒 なし

■ 121-7 高坂研氏作

キルケ協力詰 3手

										一
										二
										三
	飛									四
										五
										六
			王							七
										八
										九

持駒 金銀
 ※透明駒：攻方 1枚、受方 0枚

■ 121-8 高坂研氏作

キルケ協力詰 3手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
皇										九
王	馬									九

持駒 なし
 ※透明駒：攻方 1枚、受方 0枚

■ 121-9 青木裕一氏作

安南詰 67手 ※利き二歩有効

		銀		香	皇	馬				一
				香		香				二
				香	王	香				三
										四
							王			五
						香	香	馬		六
				香		桂	香			七
										八
				馬						九

持駒 歩4
 ※連続王手の千日手 (同一局面 4回)
 は禁手

■ 121-10 馬屋原剛氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						王	銀		一
						銀			二
			王						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角銀

※透明駒：攻方 0 枚、受方 2 枚

■ 121-11 馬屋原剛氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			王	龍					一
								王	二
			銀			銀			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金2

※透明駒：攻方 0 枚、受方 3 枚

■ 121-12 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力詰 19手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

●									一
王									二
●									三
									四
									五
									六
									七
									八
	手		歩						九

持駒 桂

※●：着手不可、不透過

以上

推理将棋第127回出題(4/19 修正)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第127回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2020年5月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第127回解答」でお願いします。

推理将棋第127回出題 担当 Pontamon

今回は「○手前」が条件になっている作品を選題しました。ゴールデンウィークもあることですので少し難し目になっています。

初級は担当からの9手詰。4手前ならわかりますが、2手前と同じ棋譜とは？

中級は、緑衾さんからの11手詰で詰み上がりの形が指定されています。

上級は、三日京さんの12手詰。同じ地点への2回目着手で駒成はできません。

■本出題

127-1 初級 Pontamon 作

2手前と同じ棋譜 9手

2手前と同じ棋譜の手は可能なのでしょうか？カラクリを解明しましょう。

127-2 中級 緑衾作

国 11手

6手前と同じ筋の着手にならないように手順をやり繰りしてください。

127-3 上級 三日京作

4手前のアリバイ 12手

4手前は最終手と同じ地点の同じ駒なのに詰んでいなかったことになります。

127-1 初級 Pontamon 作

2手前と同じ棋譜 9手

「棋譜で駒種の後ろに付く「不成」とかは補助記号って言うのかな」

「何て言うのかな、で、どうしたの？」

「9手で詰めた棋譜で「不成」がひとつだけで他の補助記号は無かったんだ」

「特に珍しくは無いね」

「でも、補助記号を無視すると2手前と同じ棋譜になる手があったのは珍しいと思うよ」

(条件)

・9手で詰み

・棋譜で、駒種の後ろに付く補助記号は「不成」がひとつだけで他には無かった

・「不成」を無視すると、2手前と同じ棋譜になる手があった

127-2 中級 緑衾 作

国 11手

「9、11手目の連続王手で詰みだね」

「詰上がり図で後手玉の周囲8マスすべてに駒があったよ」

「6手前と同じ筋への手はなくて、4手目は金駒ではなかった大駒だったね」

(条件)

・9、11手目の連続王手で詰み

・詰上がり図で後手玉の周囲8マスすべてに駒があった

・6手前と同じ筋への手はなかった

・4手目は金駒ではなかった大駒だった

127-3 上級 三日京 作

4手前のアリバイ 12手

「8手目にいた地点に12手目に戻って詰ませることができるのだろうか」

「できるね。レアケースだけど可能だよ。最後に成ればいい」

「いや、成る手はないんだ。同一駒が同一地点に戻って初王手詰」

「それだとちょっとやっかいかな」

「金と銀の間に着手があったらしいけど、これは縛り条件かもしれない」

「ヒントになるとも言えるね」

「先手に駒を取る手はなかったね」

(条件)

・12手目の初王手で詰み

・8手目と12手目は、同一駒を同一地点に着手

・金と銀の間に着手があった ※

・成る手なし

・先手に駒を取る手はなかった

※「2筋と7筋の間」や「22の角と88の角の間」のように場所が指定されていなくて、単に二つの駒の「間」なら、縦・横・斜めのいずれかの一直線の配置で、間に1マスだけがある配置になります。

東京オリンピック開催？記念作品展（再掲）

2020年東京オリンピックを記念して作品展を開催します。なおコロナウイルスの関係で実際東京オリンピック、パラリンピックが開催されるかどうか微妙な情勢でもありますので「？」を仮に入れさせていただきました。

（解答先）

→たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

解答締切：2020年5月15日（金）

第1番 神無太郎作

協力詰 23手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
		王	王	王					四
									五
		歩	金						六
									七
									八
									九

持駒 なし

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

作者コメント：初形五輪マークのつもりです。

第2番 Pontamon 作

銅だった 9手×2

会話

「件名が『銅だった』の空メールが来たけどオリンピックの話？」

「9手で詰めた将棋の話なんだ」

「銅と言えば、銅将や酔象の駒がある中将棋の話かな？」

「いや、本将棋で同の付く手を先手から見て金

の右隣へ指して詰めたんだ」

「なるほど、金へんに同で銅か。それなら僕も経験あるよ。王手2回だろ？」

「いや、僕は初王手で詰めたんだ」

共通条件

- ・9手で詰み
- ・最終手は同の付く手を先手から見て金の右隣へ指した

共通条件を満たす、王手1回と2回のそれぞれの手順を解答してください。

第3番 Pontamon 作

金銀を取った

会話

「金を取った、銀も取った」

「オリンピックでメダルを取ったの？」

「いや、将棋だよ。銅は無いけど同の手で金銀を含む3つの駒を取ったんだ。五輪と言えば5筋の手と5段目の手もあったね」

「それで結果は？」

「駒成はなくて10手で詰めたよ」

条件

- ・駒成なく10手で詰み
- ・同の手で、金銀を含む3つの駒を取った
- ・5筋の着手と5段目の着手があった

第4番 Pontamon 作

五輪4回

会話

「僕は初めてですが、日本でのオリンピックは今回で4回目なんですね」

「64年東京、72年札幌、98年長野。五輪4回を見ることになるとは」

「おっと、成駒の着手がない11手で詰んじゃった」

「五輪4回なんて言ってたら、5段目着手が3～6筋の4回あった」

「5段目着手の次の5段目着手が一度も隣の筋にはならなかったですね」

条件

- ・成駒の着手は無く、11手で詰み
- ・3～6筋の5段目着手があり、その着手順が隣の筋にはならなかった

第5番 神無七郎作

受方不動玉取禁協力詰 117手

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				桂			歩		二
				Q					三
			金	金					四
			銀	玉	角				五
				飛	龍				六
									七
			歩		歩				八
									九

持駒 なし

※53はQueenの性能を持つ攻方玉

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【受方不動玉】

手順中に受方玉を動かす手があってはならない。

(補足)

- ・あくまで手順中に受方玉を動かす手が出ないだけ。玉自体は利きを保持しており、「詰」の判定も通常通り。玉を逃す受けがあれば不詰。

【取禁】

手順中に駒を取る手があってはならない。

(補足)

- ・あくまで手順中に駒を取る手が出ないだけ。「詰」の判定も通常通り。駒を取る受けがあれば不詰。

【Queen】(Q)

チェスのQueen。飛車と角を合わせた性能を持つ。本局では攻方玉がQueenの性能になっている。(受方玉は通常の玉の性能。)

作者コメント

攻方Q王のヴァリアシオン(独舞)。かなり昔の作品ですが、ダイナミックに飛び回る攻方Q王をアスリートに見立て、「東京オリンピック開催記念作品展」に投稿します。手順は駒の入替えパズルです。

第6番 たくぼん作

東京オリンピック組曲

6-1

強欲協力詰 101手

9	8	7	6	5	4	3	2	1					
				歩	歩	歩	歩		龍	一			
							と	と		二			
				歩	龍	香		桂		三			
				歩	龍	香	角		香	桂	四		
				龍		ス	香	ス		金	ス	五	
						金	桂	ス		と	ス	六	
						銀		と		龍	飛	ス	七
									桂			王	八
									香	金			九

持駒 なし

6-2

強欲協力詰 63手

9	8	7	6	5	4	3	2	1				
				ス	ス	金				一		
					歩	歩	歩			二		
						と		歩		三		
				銀				歩		桂	四	
				龍	歩		香			桂	五	
				銀	歩	香	香	龍		桂	六	
				歩	ス	ス	歩			歩	七	
				王	角	歩	歩	香	金	飛	龍	八
				歩					金	銀	桂	九

持駒 なし

6-3

強欲協力詰 67手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王			ス	香	銀		と		一
			香	龍			香	と	二
		銀		金		桂		香	三
	歩					ス			四
					香	ス		ス	五
		ス	香	歩	歩	龍		科	六
		金	銀	と	ス	香	角		七
馬			と	と	銀	香	歩	桂	八
						桂		香	九

持駒 なし

6-4

強欲協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	と	と	と	と	と		と	香	一
金							と	香	二
							と		三
香							と	と	四
桂	銀		歩	科	香			と	五
歩	歩		銀	角	香	歩			六
	金	桂	香		馬	香	香		七
				桂	歩	香		香	八
						王	銀	香	九

持駒 なし

6-5

強欲協力詰 63手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	角	飛	香	香	香	と	と	と	一
と		歩	歩	歩					二
と								香	三
			銀					香	四
			銀		歩	銀		香	五
香	歩	飛	ス		香			香	六
歩			ス	桂	香	歩		香	七
	王				香		歩	桂	八
				香	桂				九

持駒 なし

6-6

強欲協力詰 45手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	香	と					と		一
香	香	科						香	二
	香						香		三
			と		と	歩		ス	四
			香	銀	香		香	銀	五
金	香			香			香	香	六
	科	歩	歩	香	と		香	歩	七
金		香			桂	ス	ス	香	八
	ス					桂			九

持駒 なし

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ

【作者コメント】

お約束の強欲協力詰によるあぶり出し組曲です。中には手ごわいのもあるかと思いますがよろしくお願いします。

第119回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第119回WFP作品展の結果を報告します。
 今回の出題は全11題（複数解を求める作品があるので実質12題）。解答者数6名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

〔第119回WFP作品展成績〕（敬称略）

○：正解・余詰解 ×：誤解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ₁	10 ₂	11	計
真T	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	11
たくぼん	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	11
占魚亭	○	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	8
はなさかしろう	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	4
一乗谷酔象	-	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	3
変寝夢	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	2

全題正解者こそ出ませんでした。どの作品にも作者以外の正解者が出て、まずは一安心。本当はもっと解答者が増えて欲しいのですが、ルールが多岐にわたるこの作品展では難しいでしょうか。

作品の方では **119-8** に余詰が発生しました。あまりに普通の詰上りが却って盲点になったようです。詳しくは以下の結果稿で。

■ 119-1 神無太郎氏作（正解3名）

点鏡協力白玉詰6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					王				三
									四
			王						五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【ルール】

• 協力白玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

• 点鏡

55 に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

（補足）

・行き所のない駒の禁則は適用されない

★本誌初出：第108回WFP作品展(WFP127号)

【解答】

99角 88角 22王 99角生 11王 44角
 まで6手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
					馬				四
				王					五
									六
									七
									八
馬									九

持駒 なし

【解説】

斜線上を白玉が行進する作品。

本局の目標は角で角を詰めること。もちろん、本当に角を詰めるのではなく、角に変身させた玉を詰める、性能変化系ルール特有の手順です。天竺詰や安南詰でも角に変身した玉を角で詰める作品がありますが、本局はその点鏡版と言っても良さそうです。

具体的に手順を見てみましょう。

初手と2手目は3手目22王を王手にするための限定打。88角を発生させて22王が王手になるようにします。4手目の不成も手筋。成ってしまうと、最終手で攻方玉が縦や横に逃げる事ができます。フェアリーでは成と不成の選択が可能なら、不成から読むのが基本です。

手順全体を見ると、着手はすべて11と99を結ぶ斜線上で行われています。「角を詰める」という目標と、それを実現する手順が調和していますね。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

点鏡なのに鏡のような詰め上がり。

77角、44合から考えてしまった。

真Tさん

攻方玉が王手するのが面白いですね。
今回の一番のお気に入りです。

たくぼんさん

珍しくすんなりイメージできました。
22王～11王はこうあって欲しいと言う手順。

占魚亭さん

王を11に運ぶ流れがいいですね。

■ 119-2 神無太郎氏作 (正解3名)

点鏡協力自玉詰8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
										二
				王						三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 角

【解答】

88角 22玉 77角 33玉 88角 77歩
44王 66歩生 まで 8手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
								王		三
						王				四
										五
				歩						六
										七
	角									八
										九

持駒 なし

【解説】

前局は攻方玉が33から11へ行進する作品でしたが、本局はその逆。受方玉が11から33へ行進する作品です。しかしこの4手は単なる序奏。最大の見所は後半4手です。

攻方玉を移動させる余裕はないので、詰めるには前局とは別の手段が必要です。ここは性能変化ルールの基本「玉の性能を弱くする」に則り、最も弱い駒である「歩」に変えます。

ところが、その実現には工夫が必要です。歩の性能の玉では、相手の玉に王手を掛けることができません。相手の利きに自玉を入れる手は反則になるからです。

しかし点鏡らしい見事な手筋がありました。まず受方玉を歩に変身させ攻方玉で王手します。その直後に、歩が動いて受方玉の利きを元に戻しつつ、攻方玉を歩の性能にして逆王手するという鮮やかな手筋です。

ぶつかった二人の人格が入れ替わるという物語はよくありますが、詰将棋でぶつかった駒の性格が入れ替わるとは、正に点鏡ならではの。おかげで「斜めに移動する歩」という視覚的にも珍しい手が見られました。

本局も着手はすべて11と99を結ぶ斜線内で行われます。初形がこの斜線内に収まらないのが惜しいですが、そこまで望むのは贅沢というものでしょう。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

歩以外だと詰まないですね。
頭4手が洒落ている。

真Tさん

最終3手が見えず大苦戦しました。

たくぼんさん

4手目までは119-1を解いた後で指せましたが、そこからは結構試行錯誤でした。

占魚亭さん

「太郎の氾濫 4-1」風の前半の手順と最終手が面白かったです。

■ 119-3 占魚亭氏作（正解3名）

PWC-Koko協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				龍					一
									二
			歩	王		桂			三
				歩					四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 n飛

※持駒の飛は中立駒

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

• PWC

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。（駒位置の交換となる）

（補足）

- 1)駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2)位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3)駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4)取られた玉は復元しないものとする。

• Koko

着手は、そのまわりの8マスに何らかの駒が存在するような地点のみ有効。

（補足）

- ・王手にもこの条件は適用される。
- 玉を取っても周りに駒がない場合、王手とみなされない。

→参照：WFP42号「Kokoについて」

• 中立駒（「龍」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。
取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1)中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
 - 2)中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
 - 3)中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
 - 4)中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
 - 5)中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。**手番を問わず**、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
 - 6)中立駒は行き所ない駒にならない。
 - 7)中立駒でも**自玉への王手は反則**。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
- 参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【解答】

51n 飛 同龍/41n 飛 41 桂成/33n 飛 52 玉
62 歩成 まで 5 手

（詰上り）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				龍	王				一
			と	王					二
							龍		三
				歩					四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

数年前に作った試作。

いつも通りのニッチ路線ですが、久しぶりに見て「もう少し掘ってみてもいいかな」と思いました。

【解説】

PWCで、取った駒で王手を掛けることはできるでしょうか？

答えは否。

取れる駒は相手の駒なので王手にはなりません——通常は。

でも取った駒が中立駒ならどうでしょう？

中立駒は取ることができますし、手番側の駒とみなすこともできます。この都合の良い性質を利用すれば、取った駒で王手をすることができます。

冒頭 2 手はそのための前準備。

相手の龍では取っても王手になりませんが、2 手費やして中立飛と入れ替えておけば、取った手が王手になるという仕組みです。

仕上げは PWCらしい詰上り。玉の近くには龍の守りがありますし、62 とも 41 圭も取れそうに見えます。しかし、PWCでは取った駒が復活するので、どちらの駒を取っても王手は外れません。51 龍という強力な守備駒もありますが、玉の近傍に居るために、王手を防ぐ役には立たないのです。

本局で「Koko」は余詰防止に働いています。例えば 3 手目から「44n 飛成 53 玉 62 歩成」の紛れは「71 龍」で逃れます。41 龍が金や馬でなかったのはこのためです。

本局では様々なルールが使われていますが、そのせいで焦点がぼけている印象が拭えません。特に Koko は影が薄く感じます。とりあえずは「お試し」的な位置付けの作品でしょうか。

【短評】

真 T さん

よく分からず…。

これだと 3 手目が指せないかもしれません。

たくぼんさん

最後 41 成桂がいなければ龍を遠ざけて不詰となるので、3 手目の交換がちょっと惜しい。



■ 119-4 高坂研氏作（正解 5 名）

協力白玉詰 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
					王	雀			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛角

※透明駒：攻方 0 枚、受方 1 枚

【ルール】

• 透明駒

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

【解答】（※判明した透明駒を括弧内に記述）

54 角 43 桂 35 飛(32 玉) 同馬 まで 4 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
						王			二
					飛				三
				角	王				四
						雀			五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

こちらは後手玉を透明にした例。紛れがかなりあるようで、U 君も苦戦していた。ただ作者としては、「線駒 2 枚で玉位置が決定できる」と言いたいだけで、難解にしようと意図した訳ではない。

【解説】

前回の **118-5** は攻方玉の位置を判明させる作品でしたが、今回は受方玉の位置を判明させる作品です。

その手段は単純明快。飛と角で王手を掛ければ、その利きの焦点が玉のいる位置になります。

まず、出題図の確認です。ルールから双玉が要請され受方1枚の透明駒の駒種は玉に確定。2手目の合駒で玉が不動だったこと、位置が **21** か **32** であったことが分かります。そして3手目で玉の位置が **32** に確定します。

詰上りは協力白玉詰に慣れた解答者にはお馴染みの形になります。

この詰上りを最初に使ったのは花沢正純氏でしょう。本局は、以下の作の詰上りを縦横に平行移動させたものになっています。

【参考図1】

花沢正純 作

ばか自殺詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
					王				五
			王						六
									七
									八
									九

持駒 飛角

(カピタン、1982年12月)

47 飛 46 角 67 角 54 玉 76 角 65 桂

57 飛 同角成 まで 8手

筆者にとって意外だったのは、作者のコメントにある「U君も苦戦」したという記述です。

時代が進むと古い物が却って新鮮に感じられることがあります。フェアリーも歴史が長くなり、そういうことも起こり始めているということでしょう。

この詰上りは少ない駒数で中段の玉を捕まえる効率の良い形の一つなので、これを透明駒に応用すれば「単玉のような双裸玉」を得ることが可能です。例をご覧くださいませ。

【参考図2】

協力白玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							王		八
									九

持駒 飛角

※透明駒：攻方0枚、受方1枚

単玉と言っても、盤面にあるのは攻方玉なので、厳密には「攻方単玉」と呼ぶべきでしょう。この結果稿を読んだ人なら作意は自明ですね。

攻方 **28** 王の形は大変詰みにくく、「持駒飛角、**8**手」という条件では受方玉を **47** 以外に置くとすべて不詰です。もし、この知識を持っていれば、出題図を見ただけで「透明駒=**47**玉」が確定します（もしこのような解答が送られてきたら、担当者としては正解にして良いかどうか迷いますが…）。この例のように、透明駒は「攻方単玉」とか「無配置図式」等、今までは「リパブリカン」のようなルールでしか実現できなかった作品を作ることができます。異なるルールが共通する性質を持つのは興味深いですね。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

持駒の飛がパオならわかったのに。残念。

☆変寝夢氏が想定したのは「**61**角 **52**香 **23**包(X=**25**玉) **34**馬」のような手順でしょうか？

余詰だらけなので、別の筋かもしれません。

真Tさん

あまり透明感を感じませんでした。

たくぼんさん

これは透明駒というより玉探しといった感じですね。

一乗谷酔象さん

飛合を考えて苦戦した。
玉の隣に角打で1路塞げるんだ。

占魚亭さん

受方玉の位置を確定させる、上手い組み立て方。

はなさかしろうさん

こんな詰み形があるんですね。
思いついてから確認する間のわくわくがたまりません。

■ 119-5 変寝夢氏作 (正解2名)

協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

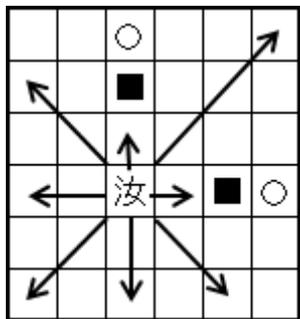
										一
								王		二
					王					三
										四
										五
										六
										七
										八
汝										九

持駒 なし
※汝:Siren

【ルール】

• Siren (汝)

フェアリーチェスの Siren (汝)。
駒を取らないときは Queen の動き。駒を取るときは Locust の動き (Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。
■は敵駒。これを取って○に行く。
■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

→本誌初出:第 102 回 WFP 作品展(WFP119 号)

【解答】

49 汝 42 銀 76 汝 32 銀 16 汝 34 角
13 汝 33 角 まで 8 手
(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
						馬	馬	王		二
						王	馬		汝	三
						馬				四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

ローカストでは出来ないことをイメージしてみました。

【解説】

駒を取るときの動きと、駒を取らないときの動きが違う Marine Piece の一種である Siren。

駒の性能はルール説明に書いた通りですが、解図に際しては、近似的に「特殊な Queen」と考えると良いでしょう。基本的には Queen の感覚で使うことができ、その王手に対して、逃げる手や合駒の他に、跳び先を埋める受けも選択できるわけです。この応手を「合駒」になぞらえて「埋駒」と呼んでみましょう。

すると本局の構成は、前半が銀2回の埋駒、後半が角2回の合駒となります。攻方の王手はすべて Siren による王手、受方の応手は斜めに利く駒で統一されています。詰上りでは受方玉自身が「埋駒」として働いているので、「合駒」の 33 角を取ることはできません。

本局は一貫性のある手順と美しい詰上りで、Siren という駒の特色を活かしており、Locust では実現できない手順を実現しようとした作者の意図は達成されていると思います。

【短評】

真Tさん

表からも裏からも受けになるんですね。汝が飛び回って城壁ができるのが面白いです。

☆解説では「埋駒」と書きましたが、「裏の合駒」の方が分かりやすそうですね。この呼称なら本局は「銀の裏合駒 2 回と角の表合駒 2 回が連続で出てくる作品」と表現できます。

たくぼんさん（※無解）

いや～解けない。

22 玉は抑える位置が多すぎる。

■ 119-6 変寝夢氏作（正解 4 名）

全Andernach協力詰 7 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				飛	飛			王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【ルール】

• 全 Andernach

玉以外の駒は、盤上の移動を行うと、着手後に相手の駒となる。

（補足）

• 細則は Andernach と同様に「駒取り」を「盤上の移動」に読み替える。

- 1) 盤上の移動で二歩になる場合、相手の駒にならない。
- 2) 相手の駒になるのは成生の選択後。
- 3) 盤上の移動では、相手陣二段目への桂の不成、一段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）。

【解答】

59 角 37 飛成転 28 龍転 48 飛生転
28 飛転 26 飛生転 16 飛打 まで 7 手

（詰上り）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
								王	五
						飛	飛		六
									七
									八
				角					九

持駒 なし

【作者のコメント】

初手 5 1 角との違いが狙い。

4 5 飛の軌跡が面白いかも。

【解説】

全 Andernach は、駒を取るかどうかに関係なく、駒が動くと所属が変わるルールです。チェスプロブレムの SuperAndernach に相当するルールですが、さすがに打つときまで「転」と、王手が掛けられない（性能変化ルールと組み合わせるなら別ですが）ので、「打」は所属変更の対象から外されています。

さて本局、上下対称な初形で、使用駒の利きも上下対称。でも、上段から打つ 51 角では詰まず、下段から打つ 59 角だと詰むのが面白いところです。

初手 51 角だと 2 手目 33 飛“成”転とできません。そのため続く 3 手目に 22 龍転とできません。つまり可成地域の違いによって詰・不詰が分かれてしまうのです。将棋盤が上下対称ではないことを改めて思い知らされますね。

もちろん、手順の見どころはそこだけではありません。合駒を打つ紛れはもちろんのこと、どちらの飛で移動合するか選択、開き王手の場所の選択、最初の飛の成と次の飛の不成の対比など、考えるべき要素はたくさんあります。それらが「全」Andernach という、目まぐるしく所属が入れ替わるルールの中で繰り返されるので、解図はなかなか大変だったと思います。

詰上りだけ見ると、初手の 59 角が取り残されている感がありますが、これこそが移動合と開き王手の軸となる影の主役です。

新ルールのお披露目の時は、そのルールの魅力をアピールできる作品を選ぶことが大切ですが、本局はお披露目作品にふさわしい出来栄えだと思います。

【短評】

真Tさん

2 手目玉から遠い 45 飛から動かしたくなります。

たくぼんさん

作品にするには難しそうなルールですが、いやいや見事な作品です。感心しました。

はなさかしろうさん

面白いルールですね。
合駒打ちと移動合いとで所属が反転するので、混乱しつつ試行錯誤を楽しみました。

■ 119-7 はなさかしろう氏作 (正解 4 名)

All-in-推理 Shogi 問 3

[条件]

- ① 7 手で詰み
- ② 後手の着手は全て先手陣内の駒を先手陣外に出す手

【ルール】

• All-in-Shogi

双方とも自分の駒だけでなく相手の駒を動かすこともできる。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻す着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手玉を動かす王手や、相手の持駒を打つ手も可。
 - 2) 相手に相手の駒を取らせることはできない。
 - 3) 相手の駒に自分の駒を取らせたとき、その駒は相手の持駒となる。
 - 4) 自玉を取らせる手は反則
- 参照 : WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

• 推理将棋

将棋についての会話 (または条件) をヒントに将棋の指し手を復元する。

• All-in-推理 Shogi

推理将棋と All-In-Shogi を組み合わせたもの。将棋の初期局面から条件に合う手順を求め

る点では推理将棋と同じだが、合法手や詰・不詰の判定に All-In-Shogi が適用される。

【解答】 (※相手の駒を動かす手を v で記述)

72v 飛 76v 歩 77 桂 65v 桂 53 桂成 44v 角
62v 玉 まで 7 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	季		季	爵	科	皇	
二			王					王		
三	歩	歩	歩	歩	主	歩	歩	歩	歩	
四						角				
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

【解説】

実戦初形から All-in-Shogi のルールで双方協力して最短の詰みを目指すとうなるか?

前回の 118-9 で示された通り、6 手で詰むというのがその結論でした。

でもこれは、先手玉を詰めた場合の話です。では、後手玉を詰めるとしたらどうでしょう?

手数が 7 手になるのはもちろんですが、着手の自由度が大幅に増え、多種多様な「解」が存在することが予想されますね。

そこで本局には「後手の着手は全て先手陣内の駒を先手陣外に出す手」という、とてもユニークな条件が付加されています。後手が先手の駒を動かす分、後手の着手が足りなくなりそうですが、心配ご無用。先手も 2 手分後手の駒を動かして、後手の手数不足を補います。着手の権利を双方でトレードしているみたいで面白いですね。手番という概念をほぼ無視して必要な駒を必要なだけ動かせる……これがこのルールの面白いところでもあり、難しいところでもあるわけですが、本作は「3 手で桂の三段跳ね」という、連続詰系のルールでしか見られないような手順を生み出しており、All-in-Shogi の特性を見事に活かしていると思います。

また、All-in-Shogi で常に問題となるのが、どんな詰上りを目指すかです。All-in-Shogi は相手

の駒を動かせるので、王手駒を動かす応手で逃れてしまわないよう注意しなければいけません。

本局で用いられている対策はいわば「二段構えの王手」。詰上りをご覧いただければ分かる通り、王手を掛けている成桂を動かしても、背後に控えている角が王手を掛けることになるので、成桂を動かしても受けにはなりません。また、「1手前の局面に戻す着手は禁手とする」というルールにより 51 玉と戻すこともできず、これで確かに詰んでいます。

なお、作者の自作解説は、前回出題分も含め 119-8 でまとめて掲載します。前回・今回で出題された4つの作品がどのような思考過程を経て生み出されたか、これを読めばよく分かります

【短評】

真Tさん

面白い条件で、手の順番もしっかり決まる。いいですね。

たくぼんさん

結構早めにこの順は見つけたのですが、条件に合致していないと早とちりしていました。先手も後手も最終手以外どちらでもいけたのですね。

一乗谷酔象さん

3連続の桂跳躍が速かった。

はなさかしろうさん

7手はいろいろな詰みがありますが、本問は条件が強いので解きやすいかな、と思います。



■ 119-8 はなさかしろう氏作 (正解4名) ※余詰

All-in-推理 Shogi 問 4

[条件]

- ①7手で詰み
- ②7筋への先手の2度目の着手は72金

【解答】(※相手の駒を動かす手をvで記述)

76歩 32飛 33角成 32v馬 72v金 62v飛 42v玉 まで7手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵			王	馬	科	皇	
二			飛			王	馬	皇		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

【作者の解説及びコメント (全文)】

《 解図・作意 》

All-in-Shogi で詰みにするには、王手を掛けている駒を逸らすことで王手を免れることができないようにする必要があります (例えば、通常の推理将棋の最短である7手の詰形11通りは全て、王手を掛けている駒を逸らすことが可能であり、All-in-Shogi では詰んでいません)。これを実現するには以下の3通りの方法があると思います。

- 1) 2枚の駒で王手を掛ける (但し、通常の両王手の場合、駒位置に戻す王手回避に注意)。
- 2) 王手を掛ける駒をピンの配置になるように走り駒でひも付けする
- 3) 逸らせない駒で王手をかける

それぞれについての最短手数を検討しました。

1) 2枚の駒で王手を掛ける

足の速い攻方の角で玉方の駒を取り、この2

枚で詰ますのが最速です。

最短で入手できるのは角で、3手で取れますが、馬と生角のコンビネーションが良くありません。76歩、42玉、33角成、22馬、32角、23角成、32玉までのように、7手を要します。

また、76歩、52金左、33角成、22馬、31馬、32銀、41玉までのように、左銀を取る手も考えられますが、7手かかります。

4手で右銀を取ることも考えられ、76歩、52金右、44角、53歩、71角成、72銀、61玉までの7手で詰みます。

次に、78の地点に飛 or 金 or 銀を呼んでおき、4手で取ることを考えます。

34歩、78飛、77角成、78馬、28飛、68玉まで、と6手で済みそうですが、3手目の77角成は自玉を取らせる手なので反則。ということで、先後反転して76歩、32飛、33角成、32馬、***、62飛、42玉まで7手が最短。

All-in-推理 Shogi 問4がこの手順を使っていますが、遊びの5手目を条件に使っているのが難問かもしれません。

All-in-推理 Shogi 問4

① 7手で詰み

② 7筋への先手の2度目の着手は72金
作意解 76歩、32飛、33角成、32馬、72金、62飛、42玉まで

なお、5手目以降42飛、52金左、41玉まででも詰み。

同様の狙いで居飛車を取りに行く76歩、66角、93角成、82馬、72馬、32飛、62玉までの7手でも詰みます。また、32で金や銀を取っても7手の詰みがあります。

一方、両王手は手数がかかります。

通常ルールの最短両王手である76歩、54歩、55角、74歩、82角成、42玉、92飛、51金右、64馬までの9手はAll-in-Shogiでも詰みですが、5手目に角を成るのが重要で、成っていないと64の角または馬を82に戻す手で受かってしまいます。

同様に76歩、32飛、33角成、同飛、15角、37飛成、46歩、57龍の8手でも詰んでいそうですが、最終手が駒取りだったため37龍と戻すことができ、不詰。All-in-Shogiと両王手は相性が良くなさそうです。

2)王手を掛ける駒をピンの配置になるように走り駒でひも付けする

最も容易なのが歩を突き出していく手順です。46歩、45歩、44歩(45)、43歩成、48飛、44飛、42玉まで7手で、5筋、6筋でも成立しますが、いずれも飛を浮いと金を引けないようにする必要があり、結局は「逸らせない駒で王手をかける」形にしなければなりませんので、この手順のバリエーションは3)に記載します。

※本譜の5手目のような場合、左右直上引のルールでは表記できないので、推理将棋の場合は特に条件付けの際に注意が必要になりそうです。

走り駒に角を使い、成駒で王手を掛ける場合、桂を跳ねるのが最速で5手で攻めの形を作れますが、玉の退路を封鎖する一手が必要になります。

All-in-推理 Shogi 問3

① 7手で詰み

② 後手の着手は全て先手陣内の駒を先手陣外に出す手

作意解 72飛、76歩、77桂、65桂、53桂成、44角、62玉まで

ところで、これまではいずれも、1手前の局面に戻す手を禁止するルールを活用することで短手数で詰みを実現しています。通常将棋ではこの手は禁手なので、通常将棋ルールの着手のみで詰む形を作るには8手必要と思われます。上記の詰み形でも手順を変えて玉を動かした後で玉方の左金を寄り、桂成を最終手にすれば詰みますが、攻方駒5手、玉方駒3手の配分なので通常将棋では達成できません。通常将棋の場合は以下のように角馬の形を使うことになります。

All-in-推理 Shogi 問2

① 8手で詰み

② すべての着手は通常将棋ルールの合法手だった

③ 飛の手に対して成の手で応じたことがあった

④ひとつの枡の斜め隣への着手が先後通算 3 手続いたことがあった

作意解 76 歩、34 歩、58 飛、88 角成、68 玉、86 角、77 桂、同馬まで

3) 逸らせない駒で王手をかける。

通常将棋の、76 歩、34 歩、22 角成、52 玉、51 角、54 歩、11 馬、55 歩、54 香までは、All-in-Shogi でも詰みですが、9 手。

76 歩、94 歩、68 玉、84 歩、77 玉、95 歩、86 玉、96 玉までは、最終手が All-in-Shogi らしい一手ですが、8 手。

78 金、54 歩、38 金、55 歩、56 歩(55)、57 歩成、52 飛、58 とまでは、57 とが一手前の局面に戻す手なので、All-in-Shogi でも詰みの形ですが、8 手。

ならば、7 段目のと金に歩でひもをつければにすれば良い、ということになります。All-in-推理 Shogi 問 1 では 5 筋の問題にしましたが、4 筋、6 筋でも成立します。

All-in-推理 Shogi 問 1

①6 手で詰み

②5 筋に着手した

作意解 54 歩、55 歩、56 歩(55)、57 歩成、56 歩、58 玉まで

この形は All-in-Shogi ならではの手を使っているため、通常将棋の詰みに応用しようとする手数が嵩んでしまいます。

以上、初形から短手数で到達できる All-in-Shogi の詰み形について考察し、出題の形にまとめました。それなりに検討したつもりで、見落としがないことを祈っておりますが、最短手数探索として、出題した以外のコンセプトに基づきつつ以下の要件を満たす手順も考えてみていただければと思います。

- ・ All-in-Shogi で、6 手以下で詰む手順
- ・ 通常将棋でも All-in-Shogi でも詰んでいる状態に至る 8 手以下の手順

※本問は条件を見ても解図の助けにならない可能性が高く、むしろ最短手数探索をしていた方が解き易いのではないかと思います。たりもする次第です……。

【解説】

実戦初形から All-in-Shogi のルールで指して 7 手で詰めよという問題。今回使われているのは「両王手」です。

両王手と言っても All-in-Shogi の両王手は普通の両王手とはずいぶんイメージが違います。2つの駒の利きがある場所に、相手玉を飛び込ませることができるので、思わぬ組み合わせの両王手の実現可能です。作者の解説によると、本作の「飛+馬」の組み合わせの他に「馬+銀」の両王手でも 7 手で詰めることが可能だと分かります。しかも、「馬+銀」の両王手は右銀・左銀のどちらでも可能です。

そんな複数の両王手や、両王手以外の詰上りを防ぐのが条件②です。初手 76 歩はほぼ確定なので、これはどこかで先手が「72v 金」という手を指したという意味になるのですが、手番がほとんど意味を持たない All-in-Shogi のルール下で、この条件だけですべての余詰を防ごうとしたのは、やや大胆すぎたようです。一乗谷酔象氏から次の余詰解が届きました。

〔余詰〕

76 歩 42 金 72v 金 33v 角成 42 馬 53v 馬 52 金 まで 7 手

何と頭金の詰上り。All-in-Shogi では普通の詰上りだと大抵駒を逃がす受けがあるので、これは却って盲点になりますね。将棋を始めたときに最初に習う頭金の基本形（金の直下に支え駒がある形）は、All-in-Shogi でも有効だということを知らされました。

作者からは以下の修正案が届いています。

All-in-推理 Shogi 問 4 (修正)

①7 手で詰み

②7 筋への先手の 2 度目の着手は 5 手目の 72 金

「72 金」を「72 銀」とするだけで修正できれば良いのですが、余詰のおそれがあるので、「5 手目の」を加える修正になりました。「72 金」を「72 銀」に代える修正案が成立するかどうかは、今後の検証課題でしょうね。

残念ながら最後の1問は余詰で潰れてしまいましたが、今回の「All-in-推理 Shogi」4作品は、最短手数探索の産物とは思えないほどルールの特徴が活かされた手順で、とても面白かったと思います。

実戦初形からフェアリールールで指したらどうなるか、皆さんも試してみませんか？

【短評】

真Tさん

面白い詰め上がりです。

条件を深読みして、72v 金ではなく 72 金と思ったら、ハズレでした。

たくぼんさん

この筋は前号解く際に見つけていましたが、72 金に目が眩んでこの筋だったと気付くのが遅れました。

一乗谷酔象さん (※余詰解)

76 歩 42 金 72v 金 33v 角成 42 馬 53v 馬 52 金 まで7手。

頭金の尻を塞ぐのが定型の一つになりましたね。

- ・角成のタイミングが非限定(4,5,6 手目のいずれか)

はなさかしろうさん

最短手数探索の折に、ようやく6手を見つけたか、と、ぬか喜びした順。118-9の順はその後で気付きました。意地悪な待ち手条件を設定するのにうってつけの状況ですが…余詰のご指摘をいただいて吃驚。

修正は「②7筋への先手の2度目の着手は5手目の72金」です。この余詰があるならば72へは金ではなく銀にすれば良かったと思いますが、7手あると相当余詰がありますので、それはそれで何かあったような気がします。

ご指摘いただいた余詰は玉方玉の投身ではない通常の詰みですね。これが7手で実現できることには全く気付きませんでした。ありがとうございます。

■ 119-9 たくぼん氏作 (正解2名) ※実質1名!

協力詰 107手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
歩	金	桂	香	銀					四
金	香	桂	金	飛	銀	銀			五
銀			香	香	香	金			六
	桂		歩	王	歩	桂		馬	七
	ス	ス	ス				飛		八
	ス		ス	ス	王				九

持駒 角

【解答】

48 角 58 玉 59 角 57 玉 48 角 58 玉
 59 歩 同と上 同角 67 玉 68 歩 77 玉
 67 歩 68 と寄 同角 78 玉 79 歩 同と上
 同角 77 玉 68 角 88 玉 86 角 68 と
 77 角 79 玉 68 角 88 玉 57 角 97 玉
 79 角 88 と 同角 86 玉 97 角 77 玉
 88 角 67 玉 68 歩 78 玉 79 歩 88 玉
 67 歩 78 角 89 歩 77 玉 78 歩 67 玉
 49 角 58 歩 同角 78 玉 76 角 58 歩
 67 角 69 玉 58 角 78 玉 76 角 58 歩
 67 角 69 玉 58 角 78 玉 76 角 58 歩
 67 角 69 玉 58 角 78 玉 76 角 58 歩
 67 角 69 玉 58 角 78 玉 76 角 58 歩
 67 角 69 玉 58 角 68 玉 49 角 57 玉
 58 歩 47 玉 38 角 58 玉 47 角 同玉
 48 歩 58 玉 59 歩 68 玉 47 歩 58 角
 69 歩 57 玉 58 歩 47 玉 48 歩 58 玉
 59 歩 67 玉 76 角 57 玉 58 歩 まで 107 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
歩	金	桂	香	銀					四
金	香	桂	金	飛	銀	銀			五
銀		角	香	香	香	金			六
	桂			王	桂		馬		七
				歩	歩		飛		八
	歩		歩		王				九

持駒 なし

【作者のコメント】

と金掃除物？の1作です。

歩の増幅機構から長手数も考えましたが、なかなか上手いかず、と金掃除の1作になりました。

【解説】

これぞ長編協力詰という本格的な作品。全体は大きく三部構成になっています。

まず、第一部の52手が長大な序奏。角を上手に運用し、途中で入手した歩も利用して、邪魔なと金を一掃します。

八段目と九段目のと金を消した後、角を盤上から消し、合駒として再入手するのが第二部に向けた重要な手順。生角を筋違いの位置に据え直すには、角を入手し直す必要があるのです。

第二部は53手目から始まります。

【途中図】 52手目 78玉とした局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
歩	金	桂	垂	銀					四
金	香	桂	金	飛	銀	銀			五
銀			香	香	香	金			六
	桂				歩	桂		馬	七
		王		角			飛		八
歩					王				九

持駒 歩

ここから「76角 58歩 67角 69玉 58角 78玉」で持駒の歩が1枚増えます。6手一組の持駒増幅です。これを必要な回数分繰返すのが第二部の手順です。

でも歩は何枚入手すれば良いのでしょうか？

歩は最大で13枚増やせますが、そこまでの必要があるとは思えません。

この疑問の答えが分かるのは収束（第三部）。つまり、正しい詰型を想定し、それを最短手数で実現する手順を見つけた後になります。結論としては、持駒増幅の回数は5回で、攻方の歩が6枚になったところで収束に向かうのですが、解図は繰返し回数を保留したまま行うしかないでしょう。

収束（第三部）は82手目78玉の代わりに68玉と手を変えるところから始まります。

しかし、空っぽで出口のない密室の中、角と歩だけでどうやって詰めれば良いのでしょうか？

47歩を消す手は何となく指せると思います。その後、何を目標にしてどんな手を指せば良いのか分からず、あてもなく盤上をさまよった人も多いと思います。

解決の鍵は、角を一旦消して仕切り直すこと。狙いは76角「打」です。

盤上で76の地点に角を運ぶには、58から開き王手で角を移動するしかありません。それには飛筋を通しておく必要があります。正解の48歩を置いた詰型は実現できません。

しかし、「打」ならば駒台からの移動なので48歩を置いて飛筋を止めた形でも76角を発生させることができます。これが角を一旦捨てて合駒で入手し直す理由です。

詰上りは76角と歩のコンビネーションによる突歩詰。作者以外でこの想定困難な詰上りに到達できたのは占魚亭氏お一人でした。占魚亭氏には惜しめない拍手を送りたいと思います。

本局は序奏、主部、収束の3つの部分がどれも充実していますが、序と収束が角の回収手順で呼応する構成は特に素晴らしいと思います。長編構成法のお手本になる作品です。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

角の上下運動が面白い。

前半のと金消去の跡地で再度似たような趣向が出てくるのは凄いなと思う。

真Iさん（※無解）

解けませんでした。200手以上かかってしまうので、根本から間違えてそうです。

たくぼんさん

解いていただける方はでるでしょうか？

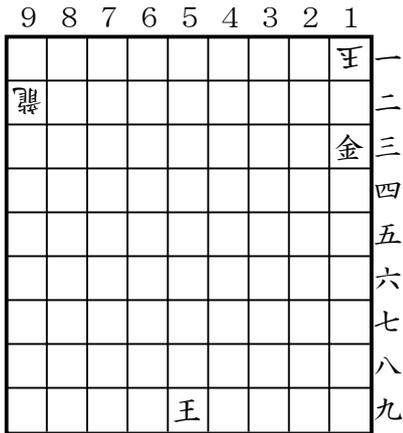
市村さんや今川さんに挑戦して欲しかったですね。

占魚亭さん

中盤のリポート、2度の角の回収となかなか凝ったストーリーの力作。

■ 119-10 上田吉一氏作 (正解3名)

協力自玉スタイルメイト 10手 (2解)

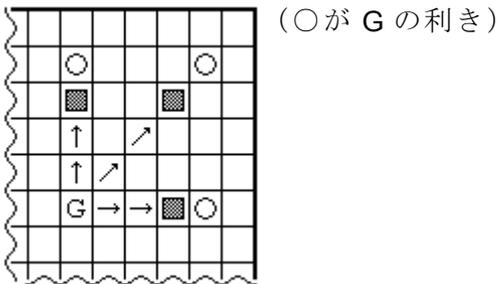


持駒 G
※G:Grasshopper

【ルール】

• Grasshopper (G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



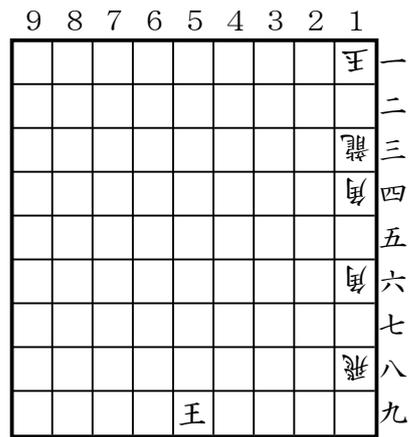
(補足)

- 飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- 成ることはできない。
- 2つ以上の駒は飛び越せない。
- **スタイルメイト**
王手は掛かっていないが合法手のない状態。
- **協力自玉スタイルメイト**
先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【解答】

- 1) 12金 同龍 19G 18飛 17G 16角
15G 14角 13G 同龍 まで 10手

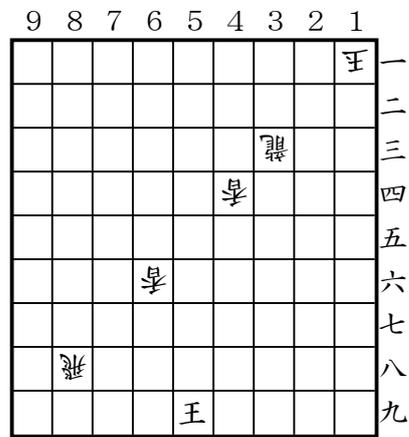
(最終形)



持駒 なし

- 2) 22金 同龍 99G 88飛 77G 66香
55G 44香 33G 同龍 まで 10手

(最終形)



持駒 なし

【解説】

第59回以来、久々に本作品展に上田吉一氏が登場されました。

当時の発表作は中編・長編でしたが、今回はフェアリー駒を使った短編作品群です。どれも狙いが明確で、難度も低めなので、今までフェアリー駒を敬遠されていた方もぜひ解図に挑戦してください。なお、上田氏はメールを使われていないので、今回の投稿は変寝夢氏に中継していただいています。

では本局の解説に移りましょう。

まずは持駒の Grasshopper (G) に目がいきますが、Gは駒を1枚跳び越して動く駒なので、初手でGによる王手はできません。つまり初手は12金と22金の二択です。「2解を求めよ」という問題の設定から、そのどちらもが正解で、2手目以降は手順が唯一に定まることが予想されます。

次は大まかな解図方針です。

もしルールが「協力自玉詰」なら「22金 同龍 99G 88飛 77G 29龍 まで 6手」で詰みますが、これはあくまで「協力自玉スタイルメイト」です。攻方玉を詰めるのではなく、包囲することを考えねばなりません。Gの特性を考えると、Gが合駒を跳躍台にを使ってピョンピョン跳ね続けることにより、合駒で自玉の包囲網を形成するのが有力です。

攻方玉は 59 にいるので、八段目は飛の横利きで抑えられますが、問題は玉の脇の二箇所。ここで「2解」の問題設定が活きてきます。

初手 12 金からGが縦に跳ぶときは斜めに利く角2枚で、初手 22 金からGが斜めに跳ぶときは縦に利く香2枚で攻方玉の脇を抑えます。そしてその位置関係から合駒の場所も自然に限定されます。

「スタイルメイト」では自玉以外の駒のことも忘れてはいけません。自玉の包囲網が完成したら、使い終わったGは龍に取らせ、スタイルメイト達成です。

手順全体を見ると、自然に無理なく無駄なく対照的な2解が生み出されていますね。フェアリー駒に慣れていない人にこそ、解いて欲しいタイプの作品です。

頭2手を省いてツインにするか、本局のように2解にするかは好みが分かれそうですが、最初は龍に金を与え、最後は龍にGを与えるという本局の手順構成を考えると、やはり作者の選んだ「2解」は適切だったと思います。

本局は縦と斜めの手順の対比に焦点を当てた作品ですが、このような構成は、チェスプロブレムではODT (Orthogonal Diagonal Transformation) と呼ばれます。

筆者は良い訳語を思いつかなかったので、高坂研氏に尋ねたところ、「直斜対照性」という訳語の提案をいただきました。もし、もっと良い訳語を思いつかれた方がいらっしゃいましたら、ご提案ください。

余談ですが、なぜ高坂氏とこういうやり取りがあったか考えると、今後出題されるであろう作品のヒントになると思います。記憶の片隅に留めておいてください。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

頭2手のような序奏は大好きです。たとえ必要がないという人が多かろうとも。

真Tさん

頭2手がいいですね。その後も一意に決まるのがきれいです。

たくぼんさん

縦と斜めの見事な対比。太郎さんのルールはPWCだったか似たような感じでしたね。

☆神無太郎氏はPWCルールで「駒柱」を作るタイプの作品を多く発表していたので、筆者もそれを思い出しました。盤上の駒が増えて行くタイプの作品はまだ少ないので、これから開拓が進むことを期待しています。

占魚亭さん

縦と横の対比。綺麗なツインです。

■ 119-11 上田吉一氏作 (正解3名)

協力自玉詰 8手

										一
										二
										三
										四
										五
										六
						王				七
驃										八
						王				九

持駒 銀4

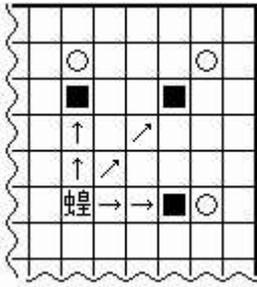
※蝗:Locust

【ルール】

• Locust (蝗)

フェアリーチェスの Locust (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。

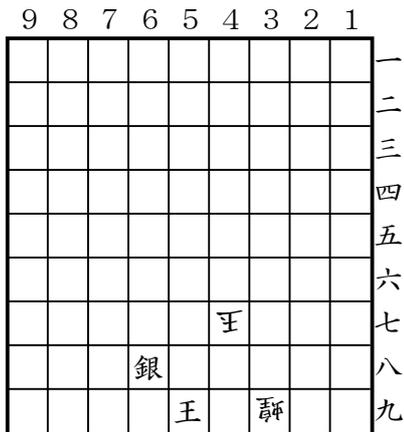


(○が蝗の利き。
 ■は敵駒。これを取って○に移動する。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりすると跳べない。)

【解答】(※跳躍地点と着地点を-で結んで表記)

48 銀 同-38 蝗 68 銀 47 玉 36 銀 同-35 蝗
 38 銀 同-39 蝗 まで 8 手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

前局は Grasshopper が主役でしたが、本局の主役は Locust。Grasshopper と違い、跳躍台となる駒を取ります。また、119-5 で登場した Siren と違い、駒を取らないと動くことはできません。

本局の目標は攻方の 59 王を詰めることですが、盤の端にいる玉は Locust に対してかなり安全です。背後に着地点がないため、壁の向かい側から Locust で王手することはできません。

唯一可能なのは横からの王手。

持駒の銀を捨てて Locust を誘導し、何とか八段目の Locust を九段目に連れてこなければいけません。

とはいえ、九段目への誘導を急いで「58 銀 同-48 蝗 46 銀 同-45 蝗 48 銀 同-49 蝗」としても、次に「同王」の応手が残るので詰みません。自玉と Locust の位置が近過ぎるのです。

作意はそれを見越して「68 銀 47 玉」の2手を挟みます。ただし、Locust は1枚しか駒を跳び越えられないので、先に「48 銀 同-38 蝗」として Locust を右辺に跳ばしておきます。

持駒銀一式の綺麗な形で、Locust の誘導する

手順を簡潔に実現した作品でした。

参考までに付け加えると、持駒銀一式の代わりに、金一式にした場合、同様の手順は成立しません。「48 金 同-38 蝗 68 金 47 玉 37 金 同-36 蝗 38 金 同-39 蝗」とした後、「69 金」という受けが残るからです。119-5 で使用された Siren と同様、「裏合駒」ができるのが Locust の特徴です。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

これも昭和の香りがプンプン。
 フェアリー駒を知らない詰キストに、とりあえずでいいから並べて欲しい。

真Tさん

駒を取った一步先に止まる蝗の動きは読み辛いですね。4 銀でまとまったのはきれい。

たくぼんさん

駒を取る表記がどうだったか忘れしました。
 初手 68 銀からはダメなんですね。
 これは面白い。

占魚亭さん

蝗入門向きの軽作。



【総評】

たくぼんさん

全部行けると思ったが、4月に入り何故か多忙になり時間切れ・・・無念。

一乗谷酔象さん

解図が手に付かない1カ月でした。
耐久戦はまだこれからですね。

占魚亭さん

平時から不要不急の外出は控えているので（ただの引きこもり）緊急事態宣言が発令されても生活態度にたいして変化はありませんが（平時との違いは、創作が捗ることくらいでしょうか）、一日も早くコロナ禍が収束することを願ってやみません。

はなさかしろうさん

119-5 をずっと考えたのですが解けませんでした。在宅勤務になってなにかと気もそぞろですが、社会を支える方々に大感謝しつつ、せめて最低限の身仕舞はしようと思う毎日です（余詰を出してしまいましたが）…
今回は手も足も出ない問題がほとんどでしたが、解答発表たのしみにしております。

☆新型コロナウイルスの感染は、詰将棋界にも影響をかなり与えていますね。世界では有名人も亡くなっています。個人的に一番残念だったのは、高名な数学者で、あの「ライフゲーム」の考案者であるジョン・コンウェイがこの感染症で死去したことでした。

そして先日、日本でも緊急事態宣言が全国に発令されました。知っておいて欲しいのは、ここで要請されている「接触機会8割減」は経験や勘によって目分量で決められた数字でも、おおげさに盛った数字でもないということです。感染症の拡大や収束は数理モデルに基づいて算出可能であり、人々が対策をどれだけ実行するかで、感染者数や収束までの期間は大きく変わります。

感染症の数理モデルについては YouTube の「Simulating an epidemic」(<https://www.youtube.com/watch?v=gxAaO2rsdls>)を見ると良いでしょう。ナレーションは英語ですが、日本語字幕も表示できるので（訳が不自然な箇所もありますが）内容の理解には支障ありません。

この動画では感染症の古典的な数理モデルである「SIRモデル」の簡略版を用いて、様々な実験を行い、各感染症対策がどんな効果をもたらすかを視覚化しています。これを見れば感染症対策として推奨されることや、避けるべき事項について、推奨や回避の理由を目に見える「量」として理解することが可能になるでしょう。

動画の最後は「人々は間違いもしてしまうが、間違いから学ぶ人間の能力が未来を導いてくれるだろう」という前向きな言葉で締めくくられています。ただ、その前に不吉な予言も行われています。曰く「感染者が一人でもいる中で全員が日常生活に戻ってしまうと、必ず感染の第二波が訪れてしまいます」。間違いから学ぶより、間違いを未然に防ぐに越したことはありません。今回の緊急事態宣言が一定の効果を上げたとしても、私たちは性急な全面的自粛解禁を求めるべきではないでしょう。長期戦を前提に考え、効果的な治療法や予防法が確立されるまで、時間稼ぎに徹する必要があると思います。

以上



推理将棋第125回出題解説

推理将棋第125回解説 担当 Pontamon

第125回は22名の方から解答をいただきました。解答、ありがとうございます。

125-1 初級 Pontamon 作 3の倍数の駒成 9手

「9手で詰んだ対局は、3の倍数の手番は異なる段での駒成だった」

「聞いた聞いた。銀の着手は無かったらしいね」

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・3手目、6手目、9手目は異なる段での駒成
- ・銀の着手は無かった

出題のことば (担当 Pontamon)

6手目に駒成できる後手の駒と言えは...

締め切り前ヒント

6手目の駒成は飛成ではなく角成です。飛成は最終手です。

推理将棋125-1 解答

▲76歩、△32飛、▲33角成、△42金、▲32馬、△88角成、▲72飛、△52金上、▲71飛成まで9手

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	龍		王		將	科	皇	一
				将	将	馬			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	皇						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 銀歩

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・3の倍数の手番は異なる段での駒成 (33角成、88角成、71飛成)
- ・銀の着手は無かった

3の倍数の手番で駒成とのことなので、9手詰なら3手目、6手目、9手目が駒成です。3手目の駒成は▲33角成か▲22角成のどちらかですが、6手目の駒成のことを考えると22の角を取ってしまっはいけません。3手目の▲33角成の次の手番の5手目に王手を掛けてしまうと後手の6手目の駒成は不可能です。かと言って、馬だけでは詰みにできないので考えたのが参考1図です。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	將	馬	金	王	將	科	皇	一
	將				将	皇			二
歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

参考1図の手順は、▲76歩、△42金、▲33角成、△41玉、▲43馬、△99角成、▲61馬、△32香、▲51金で詰みです。後手は6手目に△99角成で香を取って、8手目に玉の退路封鎖協力の△32香。でも9手目は駒成ができない金でしかも駒打ちなので条件をクリアできていません。

6手目に駒成ができる駒は角だけではなく飛もあります。6手目飛成の手順はよく作品に出てくるので角成よりもこちらの飛成を考えた方も多いのではないかと思います。

先手は5手目に王手は掛けられないし、金を取りに行っても駄目でした。5手目に駒成ができる駒を取って、7手目にその駒を打てば最終手で駒成が可能です。銀の着手なしなので、6手目

飛成の場合に駒成ができる駒を取るのであれば22の角になります。初手から、▲76歩、△32飛、▲33角成、△42金、▲22馬、△37飛成としたのが参考2図です。先手は次の7手目に取った角を打って9手目の角成で詰めなければいけません、それができそうな角の打ち場所がありません。

参考2図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	懸	王	王		懸	科	皇	一
					王		馬		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	馬	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 角歩

6手目の駒成が出来て5手目に取れる駒として残っているのは飛になります。初手から、▲76歩、△32飛、▲33角成、△42金、▲32馬の次の6手目ですが駒成ができるのは3箇所。△77角成は王手になってしまうので除外すると、88での空成りなのか99の香を取る角成なのか？ 香を取った場合には参考1図の玉の退路封鎖協力のように使用目的がなければ88と99が非限定になります。先手は飛を打って成るだけの着手が残されているので詰み形を考えると▲72飛からの▲71飛成の間龍での詰み形なので、6手目で勢いよく△99角成で香を取ってしまうと△61香の合い駒ができてしまうので6手目は△88角成の空成りが正解になります。

なお、銀の着手を許すと、▲76歩、△32銀、▲33角成、△42金、▲32馬、△88/99角成、▲31銀、△62銀、▲42銀成の詰み筋が生じてしまいます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「123-1の短評への担当コメントで「3の倍数の手番は駒成」と書きましたが、これが中々良いものだったので作品化しました」

ミニベロさん「手順自体は難しくないのですが、これは条件付けの旨さを味わう作品。きわどく逃れている順がいろいろ。77では王手、99では駒を取ってしまう、私もよく使う後手の88角！」

■香を取って玉の退路封鎖に使う手筋があるので、駒を取らずに中途半端な空成は指し難いです。

ほっとさん「2手目から42飛、33角成、62玉、42馬、99角成、56飛、72香、53飛成？は3段目の成が2回。作意は6手目香を取らない88角成なのがうまい。」

■その順はリーグ戦ファンさんの2009年新春-3「龍馬がゆく」ですね。

RINTAROさん「6手目が37飛成ではないことに気付くと解けます。88角成の限定が絶妙。」

■この88角成の限定があったので、無理矢理作品化しました。

斧間徳子さん「88角成の空成りが心地よい。秀作。」

■取って付けたような「銀の着手なし」の条件が...

NAOさん「銀の手なしで絞り込めました。」

■先手は、打って成れる駒を入手する必要があるのでは手を絞り込まれてしまいます。

のくせにさん「取った飛車を逆サイドへロングパスとは意外な展開。」

■2手のはてるま手筋。余詰検討でも忘れないようにしなければ。

ジェシーさん「今月はこれが一番の難問でした。角成は8八か9九か限定できないと決めつけて捨ててしまい、37飛成の筋ばかり考えて

いました。」

■裏読みは程々にして、迷宮に入りそうになったら出発点へ戻りましょう。

リーグ戦ファンさん「「3の倍数の駒成・9手」と見た瞬間、拙作「龍馬がゆく」がそのまま使えるぞ!」と思ったら3段目成が重複。

「龍馬がゆく」を考えた際に、9手で角の成り先が99に限定される手法がああ形しかなかったと記憶しているので、6手目は88角成&この問題では先手が角を取る暇はなさそう→「後手が駒を取ってはいけない」詰み形が自然に脳に浮かびました。ある意味問題自体を全然考えないで解けてます。」

■「龍馬がゆく」の手順が余詰にならないように付けたのが異なる段での駒成の条件でした。

諏訪冬葉さん「3の倍数といえば「世界のナベアキ」を思い出します。」

■昔、「3の倍数と3が付く手番では歩を取る。4の倍数の手番は同の手」のような条件の30手作をmixiへ投稿しましたが余詰作でした。おもちゃ箱でも57-3「世界のナベアキ」の15手作があったのですね。

緑衾さん「6手目角成は限定されないからあり得ないと考えてしまいました。」

■6手目37飛成や47飛成は場所が限定されているので目が行き易いですね。

波多野賢太郎さん「これは三つの成る駒がすぐ分かったので考え易かったです。でも、7二飛からの詰形はすぐ浮かばず悩みました。世界のナベアツ、懐かしいですね(笑)。」

■世界のナベアツは今は桂三度らしいです。

飯山修さん「香を取ると逃げ道塞ぎに使わされるのでわざと取らなかったのにそれが敗着か」

■61へ合いを打てないので99角成で香を取っておくべきでした。でもどっちの展開もあるので迷います。

山下誠さん「段数が全て異なるという条件は飛

車成で詰める手を消しているんですね。」

■はい、余詰み検討したら3段目での成が2回になる手順があったので。

原岡望さん「右と左からの大駒攻めに参った。」

■しかも成った大駒だから最強コンビ。

S.Kimuraさん「9手目は、馬の利きがあるところに成ることばかり考えていたので、7筋の龍単騎は盲点になっていました。」

■31飛からの41飛成を32の馬が支える形がありますが、それには左右の銀が動く必要があるので失敗します。

たくぼんさん「88角成限定の意味付けに感心しました。香取って62香の筋を最初に考えてしまいましたので」

■「龍馬がゆく」の手順ですね。

変寝夢さん「6手目が一番のキーなんですね。4手目4二銀の手順も使えそうですが。」

■余詰回避のために銀の動きを封印しました。

はなさかしろうさん「条件が綺麗。好い感じですね。」

■駒成の手番を個々に条件にすると条件が多くなりますが「3の倍数」で一つにまとめられています。

神在月生さん「王手もせず駒も取らないという、玉方角成位置の限定に、なるほど。」

■実際には6手目は無駄手なので、6手目は66の条件でも作品は成立します。

津久井康雄さん「6手目角成の位置をどう限定するのかと思いましたが、うまい仕組みですね。」

■作者がうまい仕組みを作ったのではなく、無駄手の限定打を選んで、あたかも作者の功績に見せかけているだけです。(笑)

 正解：19名
 ミニベロさん ほっとさん RINTAROさん
 斧間徳子さん NAOさん のくせにさん
 ジェシーさん リーグ戦ファンさん 諏訪冬葉さん
 緑衾さん 波多野賢太郎さん 飯山修さん
 山下誠さん S.Kimuraさん たくぼんさん
 変寝夢さん はなさかしろうさん 神在月生さん
 津久井康雄さん

125-2 中級 けいたん 作
 初手と最終手だけ違う駒 11手

「さっきの将棋 11手で詰んだんだって」
 「先手は初手と最終手以外同じ駒しか動かしていないな」
 「後手は2手目以外同じ駒しか動かしていないね」
 「後手は5筋の手を2回、6筋の手を3回指したな」
 「とどめは歩頭の金打ちだったね」

(条件)

- ・11手で詰み
- ・先手は初手と最終手以外同じ駒しか動かしていない ※
- ・後手は2手目以外同じ駒しか動かしていない ※
- ・後手は5筋の手を2回、6筋の手を3回指した
- ・とどめは歩頭の金打ちだった

※駒成後は別の駒とします。

出題のことば (担当 Pontamon)

先後とも同じ駒の着手が4回ずつ。金の入手方法を推理しましょう。

締め切り前ヒント

最後の歩頭の金打ちは75金です。角だと馬に成ってからしか金を取れません。

推理将棋 125-2 解答 担当 Pontamon

▲76歩、△54歩、▲77桂、△62玉、▲85桂、△53玉、▲73桂不成、△64玉、▲61桂不成、△65玉、▲75金まで11手

(条件)

- ・11手で詰み

- ・先手は初手と最終手以外同じ駒しか動かしていない (初手は歩、最終手は金、その他は桂)
- ・後手は2手目以外同じ駒しか動かしていない (2手目は歩、その後は玉)
- ・後手は5筋の手を2回、6筋の手を3回指した (5筋：2手目△54歩、6手目△53玉 6筋：4手目△62玉、8手目△64玉、10手目△65玉)
- ・とどめは歩頭の金打ちだった (11手目▲75金)

詰上り図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	主		帝	爵	科	皇	
二		遊						馬		
三	歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩	
四					歩					
五			金	玉						
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角						飛		
九	香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

先手も後手も同じ駒を4手連続で指して最終手が歩頭の金となれば先手が歩を突いて行って金を歩不成で取ってから歩頭へ金打ちするという手順が浮かぶかもしれません。

参考1図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵		王		爵	科	皇	
二		遊	帝		金			馬		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六				歩						
七	歩	歩	歩			歩	歩	歩	歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

参考1図は初手から▲66歩、△54歩、▲56

歩、△62金、▲55歩、△42金、▲54歩、△53金左、▲同歩不成、△72金、▲52金まで11手で詰めた図です。先手は初手で突いた歩ではなく3手目から5筋の歩を4手連続で突いて▲53歩不成で金を入手し、最終手を▲52金と打って頭金で詰めたのですが、棋譜を見ると後手の着手は2手目が歩で残りの4手は全て金の着手になっているので条件を満たしていると言うかもしれません。後手の4手目以降の駒種は同じ金ですが、同じ駒ではなく2つの駒の着手になっているため条件をクリアできません。

(後手の着手筋もクリアできず)

後手が同じ駒を4連続で指せて、詰みになるためには先手の駒が利いているエリアへ玉自らが出て行くこととなります。詰み形を考えると、先手の最終手が歩頭の金と言っても6段目では玉に4段目へ戻られてしまうので、初手で突いた歩の歩頭の5段目になるはずですが、その金の利きが及んでいない玉の反対側の4段目には後手が2手目に突いた歩が居れば退路が塞がれています。後手着手は5筋と6筋だけなので、初手▲76歩で最終手が▲75金で詰むには、玉は65で2手目の歩突きは△54歩の形になります。玉の反対側の腹の55地点は初手で突いた▲76歩によって角道が通ってカバーしています。

参考2図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	桂	銀	馬		▲	銀	桂	▲		一
	▲							▲		二
▲	▲	▲	▲		▲		▲	▲		三
				▲						四
		金	王							五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

詰み形はわかったので次は最終手で75へ打つための金の入手が課題になります。参考2図は金の入手のために角が出て行き、玉が53地点を經由して中段へ出れるように角の着手をやり繰り返した手順になります。

参考2図：▲76歩、△54歩、▲33角不成、△62玉、▲51角不成、△53玉、▲62角成、△64玉、▲61馬、△65玉、▲75金

初期配置の金は角筋とは筋違いになるため、この手順では3回目の角着手で角成して、61の金を馬で取っています。注釈で駒成後は別の駒とみなすことになっているのでこの手順では条件をクリアできていません。

後手の4連続着手が玉なのであれば初期配置の41か61の金を成駒の着手無しで取る必要があります。それには先手の桂の4段跳びがピッタリ。初手から▲76歩、△54歩、▲77桂、△62玉の次の5段目への桂跳びですが、6手目の玉は53に上がって来れるように▲85桂にします。そこからだと▲73桂不成、▲61桂成の一本道。後手玉は2回目の6筋着手になる△64玉から△65玉として、最終手▲75金で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

けいたん (作者) 「角が不動なのが面白いかと。」

■着手がない駒が働いていると見落としがちですね。

ミニベロさん 「32-1の金打ち版ですね。知らないと見えない詰み上がりです。」

■ミニベロさん作の32-1では▲73桂成した成桂が75へ引いて来るものですね。先行作チェックは最終手で検索することが多く、類型があるのに気付きませんでした。

ほっとさん 「3～9手目は角と思ったが、生角のままでは金がうまく入手できない。作意は桂の軌跡が限定できているのが不思議。」

■後手金が角道に出て取ってもらうのが手筋ですが、本問では同じ駒を4手動かさないといけないので金を動かす余裕がありません。

RINTAROさん 「金を入手するには桂を使うし

かないと考えると解けます。」

■桂の存在に気がつくかどうか解図成功の分かれ目。

斧間徳子さん「条件が冗長気味で、もっと簡素にできそう。」

■ちょっと条件が多かったですね。

NAOさん「角の効きを活かす手順。桂跳ねを限定するのが洒落ている。注釈付きはちょっと残念だが、角～馬の筋があるので必要ですね。」

■77の桂がどっちへ行くか、53の桂だとどっちの金を取るのか。非限定が多そうな気がするのですが上手く限定されているのが不思議。

のくせにさん「最初は角から考えましたが、桂の通り道に金が落ちているのに気付けば簡単でした。」

■最奥までも桂の4回跳ねで間に合いました。

ジェシーさん「桂跳びは最後6一か4一か限定できないのでありえないと思っていたら、そのような手があったとは・・・。」

■玉とのすれ違いがあるので▲85桂に限定されているのが不思議な感覚。

リーグ戦ファンさん「「75金まで」の詰み形の条件付けは考えたことがあります。角で行けば10手なところ、一手足して桂で行くのか…美しい。11年前の私は桂の連続跳ね問題が大好きでいろいろ考えてたので、この問題と123-3みたいな素晴らしいアイデアを見ると感嘆するとともに、自分が思いつけなかったことがなんとも悔しいです。」

■噂をすれば何とやらで、126回ではタイトルに「桂」が付いた問題が出題されています。

諏訪冬葉さん「角成から金を取って簡単。と思ってたら補足でつぶされました。」

■すみません。原稿では注釈を追加してあったのですが、出題原稿へコピーしたのは修正前の

ものだったのです。はなさかさんから成っても同じ駒なのかとの問い合わせがあって出題ミスに気付きました。

緑衾さん「角は王手放置が避けられないと考えて桂馬にしました。▲65桂とはできないんですね。」

■△53玉とのタイミングが合わないので▲65桂はありませんでした。

波多野賢太郎さん「これは意外とスンナリ解けました。後手の条件が厳しく手が限定されるので、6五で詰むのも予想し易かったです。」

■同じ駒の4回着手で、詰まされる側だと99%玉ですよ。(99%の統計は取っていないけど)

飯山修さん「角ではなく桂だと直接言わない苦心のヒントでした」

■大甘ヒントだと桂を明かしていただいでしょう。

山下誠さん「2手目を6二金と指して、角の活用を図るもうまく行かず、桂馬を使ってみたら思いのほか簡単でした。」

■歩頭の金が詰み上がりなので、ちょっと難しい。歩尻の金だとどうにかなるかな？

DJカートンさん「最終手75金はすぐに分かった(手数と後手の条件的にそれ以外あり得ない)が、64玉・44馬(初手62金、9手目44角成)を想定すると行き詰まる。」

■初手と最終手は想像できて、必要な金入手が課題でした。

原岡望さん「桂の威力に参った。ヒントさまさま。」

■角ではないというヒントでしたが、そうすると桂しかないですね。

S.Kimuraさん「中段玉になりそうだったのと、桂跳ねで金を取ることにひらめいたので、今回唯一、ヒントなしで解けました。」

■裏読みをしすぎると「非限定になりそうなので桂ではないかも」になったかも。素直に指してみれば手なりで解けますね。

たくぼんさん「駒成後も同じ駒としたら余詰のかな。解を見つけられなかったけどそれが詰まないなら強烈的な紛れになりますね。いや～しかし桂とは・・・作者名で気付くべきでした（笑）」

■角から馬での詰み手順は解説での失敗例などです。

変寝夢さん「ソフト解答です。自力でもいいところまで入ったのですが、10手目の6五玉が見えなかった。頭金で終わるわけないんですよ、残念」

■玉の真後ろと斜め後ろの退路があるので玉腹からの金ですね。

はなさかしろうさん「なるほど。桂で行って55に角の利きを残すのですね。」

■暗算に弱い担当だと55が玉の退路だと思っていて56金や56歩に55金を考えてしまう。

神在月生さん「どうぞお通りください、と道を空ける85桂の、甘い罠にひっかかる玉。」

■通せん坊の65桂じゃなくて、通りゃんせの85桂。中段へ行くことはできたが帰れず仕舞い。

津久井康雄さん「74玉・75金の形と思い込んで65桂とハネてしまい、しばし迷走しました。」

■後手着手は5筋と6筋なので74玉は指せませんでした。

占魚亭さん「2手目は64歩かと思いました。」

■6筋の着手回数の方が1回多いので、その推理は自然ですね。

正解：22名

ミニベロさん ほっとさん RINTAROさん
斧間徳子さん NAOさん のくせにさん
ジェシーさん リーグ戦ファンさん 諏訪冬葉さん
緑衾さん 波多野賢太郎さん 飯山修さん
山下誠さん DJカートンさん 原岡望さん
S.Kimuraさん たくぼんさん 変寝夢さん
はなさかしろうさん 神在月生さん 津久井康雄さん 占魚亭さん

125-3 上級 ミニベロ 作 長い話 12手

「長い話をしよう。3手目に4筋の手、12手目に8マス移動して終わりじゃ」

「ええっ、もう終わりなの」

「そう、成る手もない。どうじゃ、長い話じゃろう」

「行こっ！」

(条件)

- ・12手目の8マス移動する手で詰み。
- ・3手目は4筋
- ・成る手なし

出題のことば (担当 Pontamon)

成る手なしの条件で最終手が8マス移動で詰ませることができる駒は何でしょう。

締め切り前ヒント

持ち駒の飛を打って、その飛を最終手で8マス横移動します。

推理将棋 125-3 解答 担当 Pontamon

▲68飛、△34歩、▲48玉、△77角不成、▲36歩、△68角不成、▲37玉、△95飛、▲26玉、△59角不成、▲16玉、△15飛 まで12手

(条件)

- ・12手目の8マス移動する手で詰み。(8手目△95飛、12手目△15飛)
- ・3手目は4筋(3手目▲48玉)
- ・成る手なし

詰上り図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	玉	銀	科	皇		一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
								飛	五
						歩		玉	六
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
	角								八
香	桂	銀	金	馬	金	銀	桂	香	九

持駒なし

最終手が8マス移動の条件の作品は本作が3作目になります。最初の102-2では駒成が可能でしたので最終手は龍でしたが、本間は119-3と同様に成る手なしですので最終手は飛になります。

119-3では先手の4筋着手は無かったので条件を変えた作品ではありません。3手目に▲48銀としてそれを△15角や△26角でピンする手順は玉の退路があって失敗するという解説でした。

参考1図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	玉		銀	科	皇	一
							馬		二
歩	歩	歩				歩	歩		三
								歩	四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	七
			金	金		馬	飛		八
香	桂	銀		玉	飛	銀	桂	香	九

持駒 金歩3

3手目が4筋で最終手が飛の8マス移動となると、4筋での飛の着手を検討しなければいけません。つまり4筋から後手の飛が世に出る手筋の▲76歩、△44歩、▲同角、△42飛です。参考1図はこの手筋を使った詰みの局面ですが、2手オーバーの14手掛かっているだけではな

く、途中に駒成が必要な手順です。

参考1図の手順：▲76歩、△44歩、▲同角、△42飛、▲53角成、△47飛不成、▲63馬、△14歩、▲41馬、△同飛不成、▲58金右、△38角、▲68金上、△49飛不成

3筋からも4筋からも飛が出て行けなくて8マス移動で詰ますのは無理に思えてきますが、はてるま手筋や8マス移動の過去作品からの先入観で縦移動しか考えていなかったのが間違いかもしれません。飛は横移動もできます。

最短で龍を作る手順と同じになりますが、37や47の歩を飛で取るには6手が必要です。その後8手目で先手の飛を取って、10手目に8段目の端へ移動し12手目に反対の端へ移動することは可能ですが玉を移動させることができないので詰みにはなりません。8段目ではなく中段ではどうでしょう？6手目に目標の段へ移動して、8手目に端へ移動すれば良いので最終手で反対側の端までの8マス移動が可能です。10手目の1手だけで最終手の飛を支える形にできそうなのは△33角なので、目標の段は5段目で8手目は△95飛です。

その方針で指してみたのが参考2図ですが、詰まされに行く先手玉の移動が間に合わず、14手掛かりますし、26地点の退路が空いています。

参考2図

後手の持駒：角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	玉	銀	科	皇		一
									二
	歩	歩	歩	歩	歩	馬	歩	歩	三
歩									四
								飛	五
		歩				歩		玉	六
歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考2図の手順：▲76歩、△32飛、▲33角不成、△同飛、▲36歩、△35飛、▲48玉、△95飛、▲37玉、△33角、▲26玉、△94歩、▲16玉、△15飛まで14手

参考2図の局面を眺めていると、26の玉退路をカバーしつつ15の飛も支えることができるの

は先手陣からの後手角だと気付くでしょう。△角移動は 33 角とする 1 手しかなかったのですから 10 手目の△33 角の代わりに何か別の手を指して、△12 手目に持ち駒の角を 48 か 59 へ打てば詰みになります。14 手掛かっていることに違いはありません。2 手の短縮が必要ですが、どうやらこの詰み形が目指すものようです。

後手の飛が 5 段目へ出るまでが 6 手で、△95 飛とするのが 8 手目でしたが、後手が先手の飛を取るまでと同じく 6 手なので、8 手目に△95 飛と打つことができます。何も変わりはないような気がしますが、後手角の位置が異なります。また、▲33 角不成をしていないので先手の手数を短縮できます。

後手が駒成なしで 6 手目に先手飛を取れる地点は 28、48、68 ですが、15 へ向かう玉の妨げにならないのは 68 地点になります。したがって、初手から▲68 飛、△34 歩、▲48 玉、△77 角不成、▲36 歩、△68 角不成 の 6 手目に 68 地点で飛を取れば、8 手目に△95 飛と打って、10 手目の 1 手だけで△59 角不成ができます。7 手目から▲37 玉、△95 飛、▲26 玉、△59 角不成、▲16 玉、△15 飛 で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「この形(中段移動)は 13 手だといろいろありますが、12 手だとこれだけみたいです」

ほっとさん「31 飛→39 飛不成だと決めつけてしまい横移動がなかなか見えず。「行こっ！」=15 が大ヒントだった。」

■ヒントだったのか!担当も会話の中にヒントを入れておくことがあるけど、気付かなかった。

RINTARO さん「作者の思惑通り、3 手目 44 角にハマる。先手の飛車を取るのではと閃いたとき、全手順が見えた。簡素な条件で素晴らしいです。」

■後手飛が出るための 3 手目 44 角にはまりましたか。先手の飛の取り方もいろいろあって迷

いますね。

斧間徳子さん「飛を縦に 8 マス移動するのは 3 筋以外は難しく、となると横に移動となる。82 の飛を使うのは難しいと判れば先手の飛車を取ることになるが、68 の地点で取るというのはなかなか思いつかない。「3 手目は 4 筋」がすべてを限定する絶妙な条件!」

■飛を取る手順は△55 角から△28 角が多いですよ。

NAO さん「68 で飛を取らせるのか。10 手目まで角の効きを遅らせるのが急所。」

■飛を打ってすぐに移動して詰み上がりになりたいところ。でも飛打ちを遅らせると△59 角不成を指せないジレンマに。

のくせにさん「飛車横移動までは早めに絞り込めましたが、3 手目 4 筋=44 角と思い込んで 9 筋方面でハマりました。上級では、当然と思われる条件も疑わなくてははいけません。」

■4 段目の 8 マス移動で△94 飛なら 85 地点を抑えることができません。

ジェシーさん「会話文の最後から、詰み位置は決め打ちできました。ただし、飛車を 6 8 で取らせるというのがなかなか見えませんでした。」

■「行こっ!」の 15 ですね。

リーグ戦ファンさん「・トドメ駒は飛車しかありえず、駒成なし条件では縦に使うのは難しそう(一応確認)。

- ・横となれば▽95 飛→15 飛が当然の本線
- ・自分の飛車を使うのは▽84 歩でも▽94 歩でも攻め側 14 歩とする一手が足りない。
- ・先手の飛を 28 角成で取って OK? またも駒成なし条件に阻まれる。

成らないとなると攻め側が 37 角とする一手が一手足りない。受け側は一手余るのに。

・受け側の余った一手で飛車を 48 で取らせる: 手数 OK だけど 26 玉が手順でアウト

・59-15 ラインにこだわらず飛車を早く取らせて 8 手目に打てば?

・・・と、たぶん誰もがたどりそうな道を歩んで正解にたどり着きました。思考過程がなんと

も楽しかったです。「3手目4筋」条件が、初手▲36歩本命と思わせて逆手に使われるところも秀逸。」

■119-3が飛の縦移動で駒成なしの作品でした。推理将棋を封印されていた時なのでご存じなかったのかも。

諏訪冬葉さん「119-3で「端以外の駒打ちがなかったらどんな解があるか」を検討時に見つけました」

■担当だと半年経てば作ったものも解いたものも忘れてしまうのですが...。119-3の短評の一部を除外させていただいたのはこの作品があったからでした。

緑衾さん「横移動は無理と即断してしまい、ヒントまで待ってしまいました。6八なら3手で取れると気づき何とか解けました。」

■ヒントは少し足りないかと思いましたが大丈夫だったようです。

波多野賢太郎さん「これは相当悩みました。飛車で詰ますのはすぐわかりましたが、8二の飛車で詰ますんだろうと思いました。また、3手目が4筋という条件から4四歩を角で取って4一から4九飛というのかなり考えました。少ない条件でうまくできている作品ですね。」

■ミスディレクションを誘発する3手目4筋の条件。

原岡望さん「角を大きく使われて痺れた。端で詰まされるとは情けない。」

■追い込み漁のような角の動き。

S.Kimuraさん「119-3の9マス移動が縦だったので、今回は横移動を予想しましたが、59角がなるほどの一手でした。」

■102-2も119-3も縦8マス移動。今回は4筋の縦移動だと思って欲しかったけど通じなかった。

たくぼんさん「飛を取る位置が68とはやられましたね。それにしても12手で2条件とは凄

い」

■担当は解けなくてギブアップしました。(縦移動しか頭に無かった)

はなさかしろうさん「9筋でなくて1筋なんです。一旦方針転換してからこの形に戻ってきました。」

■初手▲56歩、3手目▲48飛にして48の飛を取って玉を9筋側へ追うと▲76歩を突く分遅くなってしまいます。

神在月生さん「自陣内の玉を詰上げるには障害物が多すぎ。」

■広いようで狭い中段、しかも端だと歩突きで詰む手順も。

津久井康雄さん「59角が来る前に玉をさっさと26へ移動するのがポイントでしょうか。」

■自陣脱出(?)のタイミングはこの時だけ。

正解：19名

ミニベロさん ほっとさん RINTAROさん
斧間徳子さん NAOさん のくせにさん
ジェシーさん リーグ戦ファンさん 諏訪冬葉さん
緑衾さん 波多野賢太郎さん 飯山修さん
山下誠さん 原岡望さん S.Kimuraさん
たくぼんさん はなさかしろうさん 神在月生さん
津久井康雄さん

総評

ほっとさん「久々に全題ヒントなしで解けました。」

■先月もヒント前解答だったと思いますがギリギリだったので感じ方が違うのでしょうか。

RINTAROさん「どの作品もちょっとした考えどころがあり、良かったです。」

■考えどころの難度が「ちょっと」ではなくなる作品が投稿されつつあります。

リーグ戦ファンさん「なんだか昔を思い出すことの多い問題3つで、楽しく解くことができま

した。私が出題側だったりしたのはもう 11 年も前ですか。非常に懐かしい記憶をありがとうございます。」

■「出題側だった」という過去形ではなく、推理将棋の封印を解いたのですから作者としての復活も期待しています。

諏訪冬葉さん「上級がすぐできたので久しぶりのノーヒント回答です」

■研究済みの問題が出ると解図は楽になるけど物足りない？

緑衾さん「今回一番好きなのは 3 番ですね。横移動だと分かってからも楽しめました。」

■ヒント投入当日に「横」の一文字を追加しました。

波多野賢太郎さん「今回はノーヒントで全て解くことができました。3 番がようやく解けたのが 3 月 2 日の入浴中で、早速解答送信です。スッキリしました。」

■相性なのか、担当は 3 番を半年掛かっても解けませんでした。毎日入浴しているのですが効果なしでした。

飯山修さん「『うまくいかない時はいったん放ったらかし』理論で翌日 68 飛を発見。3 手目の限定は 1 手目ではなく 5 手目とのからみだった。」

■▲76 歩、△44 歩、▲同角の紛れがあるので、5 手目が 4 筋よりは 3 手目条件が優れています。

山下誠さん「最終ヒントを見るまで、飛車を取って打つという手段を全く思いつきませんでした。」

■過去の飛の縦 8 マス移動の残像があると後手の飛を中段へ繰り出してと考えるてしまいます。

D J カートンさん「彩棋会の中止を聞いた時点で 1 と 3 を解く気力がなくなってしまった。」

■新型コロナウイルスの影響がこんなところに…。

原岡望さん「今回はヒントに助けられ珍しく早

めの解答です。」

■今回のヒントは少しセーブしたつもりでしたが、作品との相性ですかね。

S.Kimura さん「今回も初級から苦戦していました。」

■初級と中級が逆とのコメントもありました。順番は無視して解き易いものからどうぞ。

たくぼんさん「今月は好作揃いでしたね。懐かしい名前を拝見できて何年か前に戻った感じでした」

■今後も懐かしい作者に頑張ってもらいたいと思います。

変寝夢さん「今月も初級と中級は逆の配置ではないかという意見がでそうですね。」

■中級に近い初級でしたか。

神在月生さん「今回は総じて解きやすかった。」

■超難問があると気力も棋力も落ちてしまう？

津久井康雄さん「今回も追加ヒントのお世話になりました。」

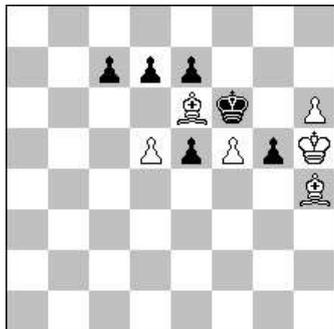
■締切り前ヒントを活用してください。

占魚亭さん「今回は 1 作のみの解答。まったく見えません……。」

■透明駒が見えなかったのは仕方ないとして、推理将棋も難しかったかな。

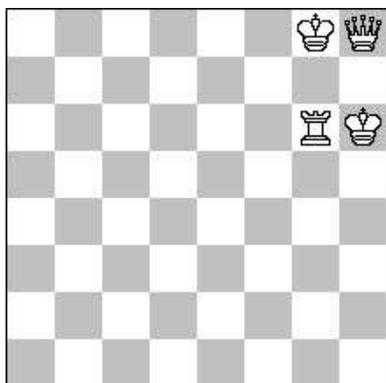
推理将棋第 1 2 5 回出題全解答者： 2 2 名

ミニベロさん ほっとさん RINTARO さん
斧間徳子さん NAO さん のくせにさん
ジェシーさん リーグ戦ファンさん 諏訪冬葉さん
緑衾さん 波多野賢太郎さん 飯山修さん
山下誠さん D J カートンさん 原岡望さん
S.Kimura さん たくぼんさん 変寝夢さん
はなさかしろうさん 神在月生さん 津久井康雄さん 占魚亭さん



「与えられた条件を満たす局面を構成せよ」という、所謂 **construction task**。将棋では殆ど作例がありません。でも、こういう分野には将棋の新しい可能性が秘められているかもしれませんね。

(11) Gideon Husserl(feenschach 1986)



合法的な局面になるように駒を色分けせよ
b)Rg6→g7 (4+0)

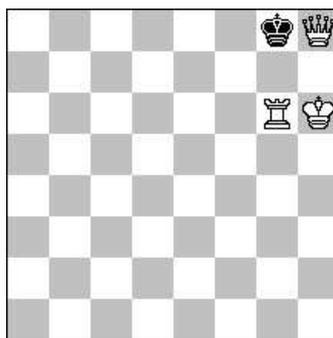
一見、QとRが同色であってもなくても、いずれもせよ **illegal** なチェックがかかっている局面に見えます。しかし、本当にそうでしょうか？よく考えてみると、一つだけ抜け道があります。

白 Pg7 が h8 にある黒駒を取って Q に成ったのだとすれば、黒 Kg8 に対して Q と R による両王手をかけることが可能ですね。従って、a)の正解図は以下ようになります。

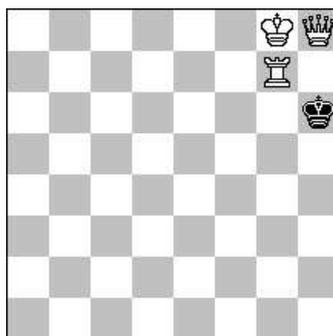
b)はもうお分かりでしょう。この場合は、白 Ph7 が h8 に直進して Q に成ったと考えればよいのです。従って、b)の正解図は以下ようになります。



(solution of a)



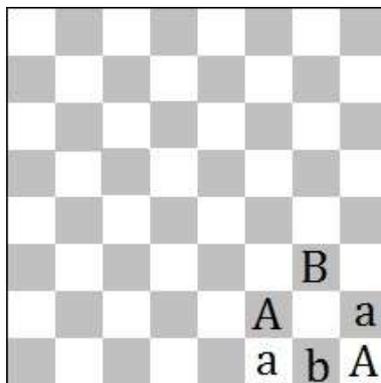
(solution of b)



チェスピースは対称性が極めて強いので、普通に作ると白黒を入れ替えた解が存在してしまいます。解を **unique** にする為に非対称性を導入する仕掛けは幾つかありますが、今回はプロモーションを利用している訳です。ちなみに、将棋の駒は上下非対称なものが多いですが、だからといってこの種の問題が作り易いということにはなりません。我こそはと思う方は、一度挑戦してみてくださいは如何ですか？

(12) Andrej N. Frolikin

(Diagrammes 96, 01-03/1991)



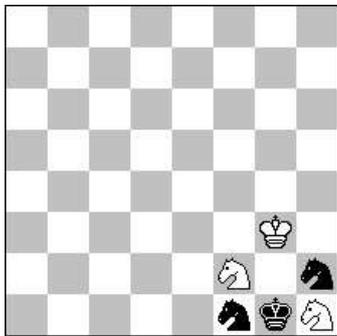
合法的な局面になるように大文字には白駒を、小文字には黒駒を対応させよ。但し、同音の文字には同種の駒種が対応する。

b)g1⇔g3 (3+3)

B が K であることは明らか。また、A が Q,B,P では illegal になるのもすぐに分かりますね。従って、A は R か S です。

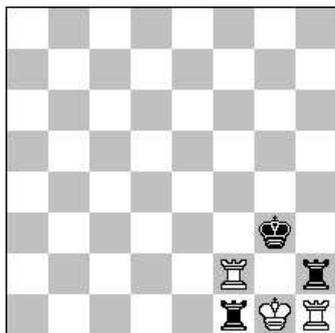
a)では A=R だと Rh1 が illegal になってしまうので、A=S です。これより a)の正解は以下ようになります。

(solution of a)



一方 b)では、A=S だと Sh1 が illegal。従って、b)の正解は以下ようになります。

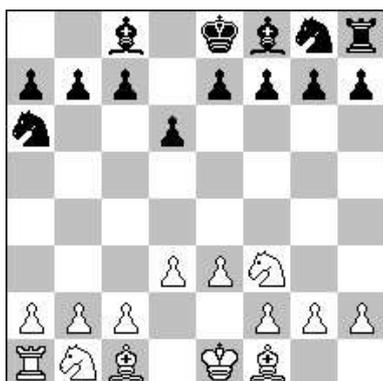
(solution of b)



明快な作りで、覆面推理の入門編に最適ですね。勿論、もっと複雑化した作品もありますが、それはまたいずれ紹介することにしましょう。

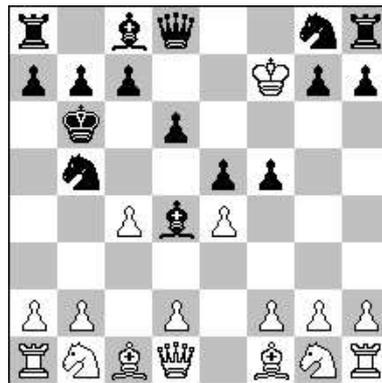
では、今月の出題です。

(13) Martin Wolfgang Hoffmann
(Die Schwalbe 122 04/1990)



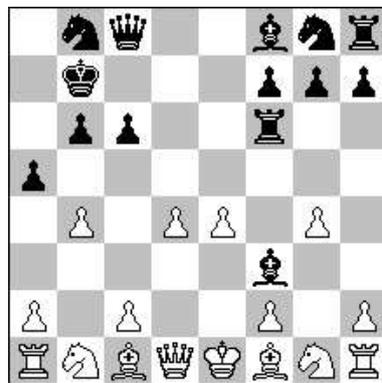
Proof Game in 8.0 moves (14+14)

(14) Michel Caillaud
(Problemesis 1998, 4th Com.)



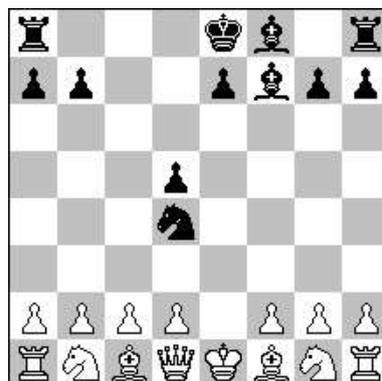
Proof Game in 11.5 moves (16+16)

(15) James Soliman
(StrateGems 49 01-03/2010)



Proof Game in 11.5 moves (16+14)

(16) Michel Caillaud
(Probleemblad 06/2000)



Proof Game in 7.0 moves (15+12)
2sols.

<余談>

とある会合で今年のセンター試験の数学の問題が話題になった。数学と言っても数学 I・数学 A や数学 II・数学 B ではなくて情報関係基礎。以下その第 2 問の抜粋（全文は https://www.asahi.com/edu/center-exam/shiken2020/mo ndai02day/jouhoukankei_02.html で参照可）。

黒色または白色に塗られるマスが縦 3 横 3 の合計 9 個並んだ盤面を用意する。初期盤面はすべてのマスが白色である。操作として、任意のマスを指定すると、そのマスとそのマスの縦横に隣接するマスの色が反転する（黒色であれば白色に、白色であれば黒色になる）。初期盤面から始めて順にマスを指定することで、512 通りのすべての盤面を作成できるか？

答えは Yes である。ただし、 $m \times n$ の盤面に一般化すると、必ずしも Yes というわけではなくなる。例えば 1×2 の盤面で、 $\blacksquare \square$ や $\square \blacksquare$ という状態を作成することはできない。

それで、どういう場合にすべての盤面が作成できるのかということここしばらく調べている。ある程度の成果は得られているのでいずれ紹介できるかも。

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【Imitator】（ \blacksquare または I）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

[補足]

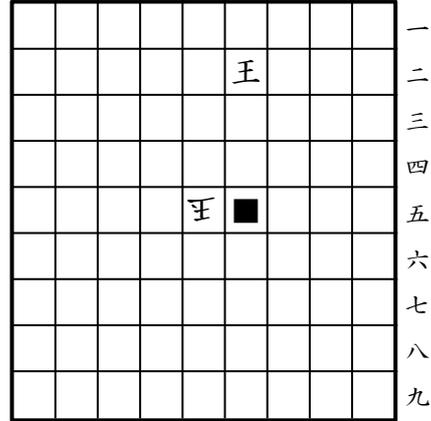
駒を打ったときは動かない。

<問題>

【5-1】

協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

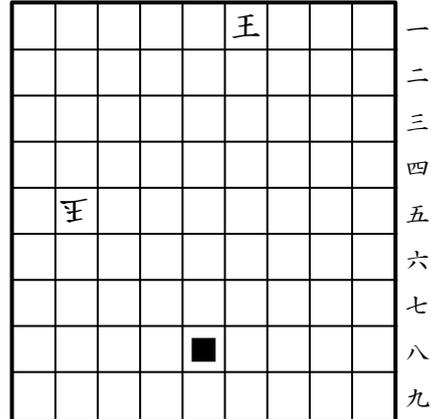


持駒 桂

【5-2】

協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

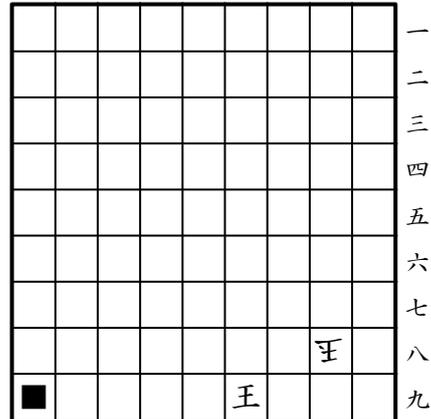


持駒 角

【5-3】

協力自玉スタイルメイト 8 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 桂

Fairy TopIX2019投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで発表されたフェアリー詰将棋・推理将棋・プルフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2019は2019年にウェブサイトで発表された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。 takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2020年4月5日
投票締切：2020年5月10日
結果発表：WFP令和2年5月号(143号)

【対象】

2019年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくはHPより対象作品一覧で確認下さい。またWFP作品展につきましては神無七郎氏のサイト(OFM)でも全作品動く盤面で鑑賞いただけますのでそちらを参照下さい。

【部門区分】

【フェアリー詰将棋】

短編部門：～15手
中編部門：16～49手
長編部門：50手～
推理将棋・プルフゲーム 手数区分なし

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただけると助かります。

- ・ 部門名

- ・ WFP何月号(または何号)
- ・ 作品展名(またはコーナー名)
- ・ (あれば)作品番号
- ・ 作者名&ルール名&手数
- ・ 投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお対象作品一覧には通し番号を打ってますのでそちらの記載でも構いません。

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

- 1位：5点、
- 2位：3点
- 3位：2点
- 上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしくお願いします。

お気に入り投票ですので、全部の作品を見てなくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて5月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしくお願いいたします。

2020/4/20 現在

投票数1(ミニベロさん)

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2020年5月10日(日)

推理将棋第 1 2 7 回出題

推理将棋 3 題

2020年5月15日(金)

第 120 回 WFP 作品展

フェアリー作品 10 題

東京オリンピック開催？記念作品展

フェアリー作品 8 題

推理将棋 3 題

2020年6月15日(月)

第 121 回 WFP 作品展

フェアリー作品 12 題

作品募集締切一覧

2020年5月15日(金) 投稿締切

Fairy of the Forest #63

課題：協力詰（自由課題）

（投稿先）

→酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

詳細は、先月号 P33 をご覧下さい

【あとがき】

世の中はコロナウイルスの脅威にさらされてニュースの話題もそればかり。先が見えないということの不安感は計り知れません。

ホテルや旅館業、飲食業、エンタメ業界などいきなり影響が出てくる業種は本当に大変でしょう。私は建築業の末端ですが、当面の影響はまだ感じないのですが、この先1年～3年後の状況が不安でしょうがありません。

それでは少し明るい話題を。

先月、小川悦勇よりお手紙を頂きました。以前はよくメールを頂き近況を語り合っていたのですが、数年前から連絡が取れなくなりちょっと心配しておりました。お手紙によると諸事情でネットが繋がれなかったようで現在もその状態のようです。お元気そうでよかったです。

もう一つは、ある大物フェアリストの全作品集を出版する話があると聞きました。まだ公表されておりませんので詳しくはまだ書けませんがこれは待ち遠しい話です。実はちょこっと一部分原稿を拝見させて頂きましたが素晴らしい内容で一言で言うと「実にマニアック！」
乞うご期待です。

こう言う状況ですから「明るい話題」を募集します！どしどし編集部まで原稿や話題をメールして下さい！よろしくお願いします。

FairyTopIX2019 お気に入り投票要項を HP に掲載しております。締切は 5/10 です。WFP のページに候補作一覧を載せておりますので是非ご覧頂き、お気に入りの作品を投票下さい。

たくぼん

2020年 第142号

Web Fairy Paradise

非売品

令和二年四月号

令和二年四月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp